

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成22年5月21日提出
【発行者名】	野村アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	執行役社長 吉川 淳
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】	松井 秀仁 連絡場所 東京都中央区日本橋一丁目12番1号
【電話番号】	03-3241-9511
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	ハッピーライフファンド・株25(ライフプラン積立て向け) ハッピーライフファンド・株50(ライフプラン積立て向け) ハッピーライフファンド・株100(ライフプラン積立て向け)
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	継続募集額(平成21年11月21日から平成22年11月19日まで) ハッピーライフファンド・株25(ライフプラン積立て向け) 1兆円を上限とします。 ハッピーライフファンド・株50(ライフプラン積立て向け) 1兆円を上限とします。 ハッピーライフファンド・株100(ライフプラン積立て向け) 1兆円を上限とします。 *なお、継続申込期間（以下「申込期間」といいます。）は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成21年11月20日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報により訂正するため、また「第二部 ファンド情報」、「第三部 ファンドの詳細情報」および「第四部 特別情報」に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正の内容】

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1 ファンドの性格

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

(2)ファンドの仕組み

（前略）

委託会社の概況

委託会社

（前略）

・資本金の額

平成21年10月末現在、17,180百万円

・会社の沿革

（中略）

・大株主の状況(平成21年10月末現在)

（以下略）

<訂正後>

(2)ファンドの仕組み

（前略）

委託会社の概況

委託会社

（前略）

・資本金の額

平成22年4月末現在、17,180百万円

・会社の沿革

（中略）

・大株主の状況(平成22年4月末現在)

（以下略）

2 投資方針

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部_____は訂正部分を示します。

(1) 投資方針

<訂正前>

[2] 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社（「NFR&T」という場合があります。）に運用の指図に関する権限の一部を委託し、NFR&Tが定性評価・定量評価等を勧案し、運用において優れていると判断した投資信託証券に分散投資を行ないます。

投資信託証券への投資にあたっては、指定投資信託証券の中から、定性評価、定量評価等を勧案して選択した投資信託証券に分散投資を行なうことを基本とします。なお、組入投資信託証券については適宜見直しを行ないます。

委託する範囲	: 投資信託証券の運用(指定投資信託証券の見直しを含む。)
委託先名称	: 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社
委託先所在地	: 東京都中央区
委託に係る費用	: 上記の委託を受けた者が受ける報酬は、委託者が受ける報酬から、この信託の信託報酬支払いのときに支払うものとし、その報酬額は、各ファンドの信託財産の平均純資産総額(月末純資産総額の平均値)に、次の率を乗じて得た額とします。

(平均純資産総額)	(率)
1,000億円以下の部分	年10,000分の18
1,000億円超の部分	年10,000分の17

運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更する場合があります。

<訂正後>

[2] 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社（「NFR&T」という場合があります。）に運用の指図に関する権限の一部を委託し、NFR&Tが定性評価・定量評価等を勧案し、運用において優れていると判断した投資信託証券に分散投資を行ないます。

投資信託証券への投資にあたっては、指定投資信託証券の中から、定性評価、定量評価等を勧案して選択した投資信託証券に分散投資を行なうことを基本とします。なお、組入投資信託証券については適宜見直しを行ないます。

委託する範囲	: 投資信託証券の運用(指定投資信託証券の見直しを含む。)
委託先名称	: 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社
委託先所在地	: 東京都中央区
委託に係る費用	: 上記の委託を受けた者が受ける報酬は、委託者が受ける報酬から、この信託の信託報酬支払いのときに支払うものとし、その報酬額は、各ファンドの信託財産の平均純資産総額(月末純資産総額の平均値)に、次の率を乗じて得た額とします。

平均純資産総額	率
1,000億円以下の部分	年10,000分の18
1,000億円超の部分	年10,000分の17

運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更する場合があります。

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 2 投資方針 (1) 投資方針 [3]」は、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

[3] 投資信託証券への投資は、高位を維持することを基本とします。

「株25」、「株50」については、各ファンドが投資信託証券への投資を通じて実質的に保有する株式（当該投資信託証券が実質的に保有する株式を勘案します。）への配分比率が信託財産の純資産総額の概ね下記の比率程度となることを目途として、投資信託証券への投資を行なうことを基本とします。

実質的に保有する株式の比率

株25	25%程度
株50	50%程度

投資信託証券への投資にあたっては、各ファンド毎に当該ファンドが実質的に投資することとなる資産クラス別の基準配分比率を原則として維持することを意識した運用を行なうことを基本とします。

各ファンドが投資対象とする投資信託証券および当該投資信託証券への投資を通じて実質的に投資することを意識する各ファンドにおける資産クラス別の基準配分比率（純資産に対する比率）は以下の通りです。

なお、各ファンドの基準配分比率については、将来的に、長期的な資産クラス間のリターン・リスク関係の変化に基づき、国内株式と外国株式の比率を見直すことがあります。

主要 投資対象	投資対象とする 投資信託証券	資産 クラス	基準配分比率		
			株25	株50	株100
国内株式	ノムラ・ジャパン・オープンF	国内 株式	17% 程度	34% 程度	60% 程度
	リサーチ・アクティブ・オープンF				
	ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ 日本株バリュートオープンF				
	ストラテジック・バリュート・オープンF				
	野村RAFI日本株投信F				
	みずほ日本株バリュートファンドF				
	JPM日本株50・オープンF				
	フィデリティ・ジャパン・オープンF				
	アライアンス・バーンスタイン・日本バ リュート株投信F				
	ピクテ・ジャパン・ファンドF				
	東京海上日本成長株ファンドF				
	キャピタル・インターナショナル・ ジャパン・エクイティ・ファンド F				
	野村海外株式ファンドF				
ノムラ・ジャナス・インテック 海外株式ファンドF					
ノムラ・コロンビア米国株 バリュート・ファンドF					
ノムラ・レイニア米国 成長株ファンドF					
シュローダー・アジア・パシフィック 株式ファンドF					
ゴールドマン・サックス・アメリカン ・オープンF					
ピクテ欧州ファンドF					
東京海上・スレッドニードル欧州株式フ ァンドF					
UBS海外株式ファンドF					
MFS欧州株ファンドF					
国内債券 および 外国債券	ノムラ海外債券ファンドF	国内 債券 および 外国 債券	75% 程度	50% 程度	-
	ノムラ・モンドリアン 海外債券ファンドF				
	ノムラ・ブラックロック 米国債券オープンF				
	ノムラ・インサイト 欧州債券ファンドF				
	ノムラ日本債券オープンF				
	ドイチェ欧州債券ファンドF				
	ゴールドマン・サックス・ 世界債券オープンF				
	LM・米国債券コア・プラスF				
	ステート・ストリート米国総合債券 カレンシー・アルファ・ファンドF				
	ステート・ストリート欧州総合債券 カレンシー・アルファ・ファンドF				
	TCW 米国債券ファンド F				
	FFTW世界債券オープンF				
	アイエヌジー・欧州債券ファンドF				
	メロン米国コア・プラス債券ファンドF				
	ウエルントン・マネージメント・ポート フォリオ(ケイマン) - 海外債券ファンド F				

「国内債券および外国債券」の資産クラスを「世界債券」と称する場合があります。

<訂正前>

(参考) 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーについて

(前略)

上記の「NFR&Tのファンドの定性評価」の図は平成21年11月現在のものであり、今後変更となる場合があります

す。

<訂正後>

(参考) 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジーについて

(前略)

上記の「NFR&Tのファンドの定性評価」の図は平成22年5月現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正前>

(2) 投資対象

主として有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。

投資信託の受益証券（投資法人の投資証券を含みます。）とします。

各ファンドは各々、以下に示す投資信託証券（「指定投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。

指定投資信託証券	株25 株50	株100
ノムラ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）		
リサーチ・アクティブ・オープンF（適格機関投資家専用）		
ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュートオープンF（適格機関投資家専用）		
ストラテジック・バリュート・オープンF（適格機関投資家専用）		
みずほ日本株バリュートファンドF（適格機関投資家専用）		
JPMジャパン50・オープンF（適格機関投資家専用）		
フィデリティ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）		
フィデリティ・中小型株・オープンF（適格機関投資家専用）	—	—
ピクテ・ジャパン・ファンドF（適格機関投資家専用）		
BGIジャパン・バリュート・ファンドF（適格機関投資家専用）	—	—
東京海上日本成長株ファンドF（適格機関投資家専用）		
キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F（適格機関投資家専用）		
野村海外株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
ノムラ・ジャナス・インテック海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）		
ノムラ・コロンビア米国株バリュート・ファンドF（適格機関投資家専用）		
ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF（適格機関投資家専用）		
シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF（適格機関投資家専用）		
ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF（適格機関投資家専用）		
ピクテ欧州ファンドF（適格機関投資家専用）		
東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF（適格機関投資家専用）		
UBS海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）		
MFS欧州株ファンドF（適格機関投資家専用）		
ノムラ海外債券ファンドF（適格機関投資家専用）		-
ノムラ・モンドリアン海外債券ファンドF（適格機関投資家専用）		-
ノムラ・ブラックロック米国債券オープンF（適格機関投資家専用）		-
ノムラ・インサイト欧州債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ノムラ日本債券オープンF（適格機関投資家専用）		-
ドイチェ欧州債券ファンドF（適格機関投資家専用）		-
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンF（適格機関投資家専用）		-
LM・米国債券コア・プラスF（適格機関投資家専用）		-
ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF（適格機関投資家専用）		-
ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF（適格機関投資家専用）		-
TCW 米国債券ファンド F（適格機関投資家専用）		-
FFTW世界債券オープンF（適格機関投資家専用）		-

アイエヌジー・欧州債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
メロン米国コア・プラス債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
アクサIM 欧州債券ファンド F(適格機関投資家専用)	—	-
ウエリントン・マネージメント・ポートフォリオ(ケイマン) - 海外債券ファンド F <外国籍投資信託>		-

上記は平成21年11月20日現在の指定投資信託証券の一覧です。今後、上記指定投資信託証券の一部が、名称が変更となる場合、または繰上償還等により指定投資信託証券から除外される場合、あるいは、ここに記載された以外の投資信託証券が新たに指定投資信託証券に追加となる場合等があります。

指定投資信託証券の名称について「(適格機関投資家専用)」の部分を省略して記載する場合があります。

(以下略)

<訂正後>

(2) 投資対象

主として有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。

投資信託の受益証券(投資法人の投資証券を含みます。)とします。

各ファンドは各々、以下に示す投資信託証券(「指定投資信託証券」といいます。)を主要投資対象とします。

指定投資信託証券	株25 株50	株100
ノムラ・ジャパン・オープンF(適格機関投資家専用)		
リサーチ・アクティブ・オープンF(適格機関投資家専用)		
ノムラ・アクサ・ローゼンバーク日本株バリュウオープンF(適格機関投資家専用)		
ストラテジック・バリュウ・オープンF(適格機関投資家専用)		
野村RAFI [®] 日本株投信F(適格機関投資家専用)	—	—
みずほ日本株バリュウファンドF(適格機関投資家専用)		
JPMジャパン50・オープンF(適格機関投資家専用)		
フィデリティ・ジャパン・オープンF(適格機関投資家専用)		
アライアンス・パーンスタイン・日本バリュウ株投信F(適格機関投資家専用)	—	—
ピクテ・ジャパン・ファンドF(適格機関投資家専用)		
東京海上日本成長株ファンドF(適格機関投資家専用)		
キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F (適格機関投資家専用)		
野村海外株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
ノムラ・ジャナス・インテック海外株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
ノムラ・コロンビア米国株バリュウ・ファンドF(適格機関投資家専用)		
ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF(適格機関投資家専用)		
シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF(適格機関投資家専用)		
ピクテ欧州ファンドF(適格機関投資家専用)		
東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
UBS海外株式ファンドF(適格機関投資家専用)		
MFS欧州株ファンドF(適格機関投資家専用)		
ノムラ海外債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ノムラ・モンドリアン海外債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ノムラ・ブラックロック米国債券オープンF(適格機関投資家専用)		-
ノムラ・インサイト欧州債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ノムラ日本債券オープンF(適格機関投資家専用)		-
ドイチェ欧州債券ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンF(適格機関投資家専用)		-
LM・米国債券コア・プラスF(適格機関投資家専用)		-
ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF(適格機関投資家専用)		-
ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF(適格機関投資家専用)		-

TCW 米国債券ファンド F（適格機関投資家専用）		-
FFTW世界債券オープンF（適格機関投資家専用）		-
アイエヌジー・欧州債券ファンドF（適格機関投資家専用）		-
メロン米国コア・プラス債券ファンドF（適格機関投資家専用）		-
ウエリントン・マネージメント・ポートフォリオ（ケイマン） - 海外債券ファンド F <外国籍投資信託>		-

上記は平成22年5月21日現在の指定投資信託証券の一覧です。今後、上記指定投資信託証券の一部が、名称が変更となる場合、または繰上償還等により指定投資信託証券から除外される場合、あるいは、ここに記載された以外の投資信託証券が新たに指定投資信託証券に追加となる場合があります。

指定投資信託証券の名称について「（適格機関投資家専用）」の部分を省略して記載する場合があります。

（以下略）

（参考）指定投資信託証券について

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 2 投資方針 (2)投資対象（参考）指定投資信託証券について」の該当部分を以下のように訂正するとともに、各指定投資信託証券についての運用の方針等、「ベンチマークについて」および「指定投資信託証券の委託会社等について」は、以下の内容に更新・訂正されます。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

以下は各ファンドが投資を行なう投資信託証券（「指定投資信託証券」といいます。）の投資方針、関係法人、信託報酬等について、平成21年11月20日現在で委託会社が知りうる情報等を基に記載したものです。

（以下略）

<訂正後>

以下は各ファンドが投資を行なう投資信託証券（「指定投資信託証券」といいます。）の投資方針、関係法人、信託報酬等について、平成22年5月21日現在で委託会社が知りうる情報等を基に記載したものです。

（以下略）

<更新・訂正後>

[次へ](#)

<訂正前>

(3) 運用体制

（前略）

ファンドの運用体制等は平成21年11月20日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

(3) 運用体制

（前略）

ファンドの運用体制等は平成22年5月21日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

3 投資リスク

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

委託会社におけるリスクマネジメント体制

（前略）

投資リスクに関する管理体制等は平成21年11月20日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

委託会社におけるリスクマネジメント体制

（前略）

投資リスクに関する管理体制等は平成22年5月21日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4 手数料等及び税金

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

(3) 信託報酬等

（前略）

(参考)各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬

指定投資信託証券の名称	信託報酬率(年率)
ノムラ・ジャパン・オープンF	0.90825% (税抜0.865%)
リサーチ・アクティブ・オープンF	0.67725% (税抜0.645%) 以内
ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュオープンF	0.6825% (税抜0.65%)
ストラテジック・バリュオープンF	0.63% (税抜0.60%)
みずほ日本株バリュファンドF	0.5775% (税抜0.55%)
JPMジャパン50・オープンF	0.8505% (税抜0.81%)
フィデリティ・ジャパン・オープンF	0.924% (税抜0.88%) 以内
フィデリティ・中小型株・オープンF	<u>0.945% (税抜0.90%)</u>
ピクテ・ジャパン・ファンドF	0.8505% (税抜0.81%)
BGIジャパン・バリュ・ファンドF	<u>0.6195% (税抜0.59%)</u>
東京海上日本成長株ファンドF	0.609% (税抜0.58%)
キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F	0.60375% (税抜0.575%)
野村海外株式ファンドF	0.8925% (税抜0.85%)
ノムラ・ジャナス・インテック海外株式ファンドF	0.86625% (税抜0.825%)
ノムラ・コロンビア米国株バリュ・ファンドF	0.8715% (税抜0.83%)
ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF	0.84% (税抜0.80%)
シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF	0.7875% (税抜0.75%)
ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF	0.91875% (税抜0.875%)
ピクテ欧州ファンドF	0.8925% (税抜0.85%)
東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF	0.84% (税抜0.80%)
UBS海外株式ファンドF	0.9765% (税抜0.93%)
MFS欧州株ファンドF	0.7875% (税抜0.75%)
ノムラ海外債券ファンドF	0.3885% (税抜0.37%)

ノムラ - モンドリアン海外債券ファンドF	0.7875%（税抜0.75%）以内
ノムラ - ブラックロック米国債券オープンF	0.42%（税抜0.40%）
ノムラ - インサイト欧州債券ファンドF	0.4725%（税抜0.45%）
ノムラ日本債券オープンF	0.3675%（税抜0.35%）
ドイチェ欧州債券ファンドF	0.42%（税抜0.40%）
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンF	0.525%（税抜0.50%）
LM・米国債券コア・プラスF	0.4935%（税抜0.47%）
ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF	0.2625%（税抜0.25%）
ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF	0.2625%（税抜0.25%）
TCW 米国債券ファンド F	0.3465%（税抜0.33%）
F F T W世界債券オープンF	0.441%（税抜0.42%）
アイエヌジー・欧州債券ファンドF	0.42%（税抜0.40%）
メロン米国コア・プラス債券ファンドF	0.43575%（税抜0.415%）
アクサIM 欧州債券ファンドF	0.43575%（税抜0.415%）
ウエリントン・マネージメント・ポートフォリオ（ケイマン） - 海外債券ファンド F	0.3675%以内 + 成功報酬

上記の信託報酬率は、平成21年11月20日現在のものであり、今後変更となる場合もあります。

国内籍投資信託の場合、上記の他、監査費用等の費用も別途かかります。また、外国籍投資信託の場合、ファンドによっては上記の他、受託会社、保管受託銀行、管理事務代行会社の報酬、設立費用、監査費用等の費用も別途かかる場合、報酬額等に年間の最低金額が定められている場合があります。

なお、いずれも申込手数料はかかりません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等の詳細については「（参考）指定投資信託証券について」をご覧ください。

なお、各ファンドの信託報酬に各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬（成功報酬を除く）を加えた、受益者が実質的に負担する信託報酬率（成功報酬を除く）について、NFR&Tが試算した概算値は以下の通りです。

ただし、この値はあくまでも実質的な信託報酬率の目安であり、各ファンドの実際の投資信託証券の組入れ状況等によっては、実質的な信託報酬率は変動します。

ファンド	実質的な信託報酬率（税込・年率）の概算値
ハッピーライフファンド・株25	1.20% ± 0.15%程度
ハッピーライフファンド・株50	1.30% ± 0.15%程度
ハッピーライフファンド・株100	1.65% ± 0.15%程度

各ファンドが投資対象とする投資信託証券には、信託報酬に成功報酬制を採用しているものがあり、これらの投資信託証券については、運用実績により成功報酬額も負担することになります。成功報酬を含む信託報酬等の詳細は「（参考）指定投資信託証券について」をご覧ください。

上記の実質的な信託報酬率の概算値は、平成21年11月20日現在のものであり、指定投資信託証券の変更等により今後変更となる場合があります。

<訂正後>

(3) 信託報酬等

（前略）

（参考）各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬

指定投資信託証券の名称	信託報酬率(年率)
ノムラ・ジャパン・オープンF	0.90825%（税抜0.865%）
リサーチ・アクティブ・オープンF	0.67725%（税抜0.645%）以内
ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュオープンF	0.6825%（税抜0.65%）
ストラテジック・バリュオープンF	0.63%（税抜0.60%）
野村RAFI [®] 日本株投信F	0.42%（税抜0.40%）
みずほ日本株バリュファンドF	0.5775%（税抜0.55%）
JPMジャパン50・オープンF	0.8505%（税抜0.81%）
フィデリティ・ジャパン・オープンF	0.924%（税抜0.88%）以内
アライアンス・バーンスタイン・日本バリュ株投信F	0.5775%（税抜0.55%）
ピクテ・ジャパン・ファンドF	0.8505%（税抜0.81%）
東京海上日本成長株ファンドF	0.609%（税抜0.58%）
キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F	0.60375%（税抜0.575%）
野村海外株式ファンドF	0.8925%（税抜0.85%）
ノムラ・ジャナス・インテック海外株式ファンドF	0.86625%（税抜0.825%）
ノムラ・コロンビア米国株バリュ・ファンドF	0.8715%（税抜0.83%）
ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF	0.84%（税抜0.80%）
シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF	0.7875%（税抜0.75%）
ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF	0.91875%（税抜0.875%）
ピクテ欧州ファンドF	0.8925%（税抜0.85%）
東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF	0.84%（税抜0.80%）
UBS海外株式ファンドF	0.9765%（税抜0.93%）
MFS欧州株ファンドF	0.7875%（税抜0.75%）
ノムラ海外債券ファンドF	0.3885%（税抜0.37%）
ノムラ・モンドリアン海外債券ファンドF	0.7875%（税抜0.75%）以内
ノムラ・ブラックロック米国債券オープンF	0.42%（税抜0.40%）
ノムラ・インサイト欧州債券ファンドF	0.4725%（税抜0.45%）
ノムラ日本債券オープンF	0.3675%（税抜0.35%）
ドイチェ欧州債券ファンドF	0.42%（税抜0.40%）
ゴールドマン・サックス・世界債券オープンF	0.525%（税抜0.50%）
LM・米国債券コア・プラスF	0.4935%（税抜0.47%）
ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF	0.2625%（税抜0.25%）
ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF	0.2625%（税抜0.25%）
TCW 米国債券ファンド F	0.3465%（税抜0.33%）
F F T W世界債券オープンF	0.441%（税抜0.42%）
アイエヌジー・欧州債券ファンドF	0.42%（税抜0.40%）
メロン米国コア・プラス債券ファンドF	0.43575%（税抜0.415%）
ウエリントン・マネージメント・ポートフォリオ（ケイマン） - 海外債券ファンド F	0.3675%以内 + 成功報酬

上記の信託報酬率は、平成22年5月21日現在のものであり、今後変更となる場合もあります。

国内籍投資信託の場合、上記の他、監査費用等の費用も別途かかります。また、外国籍投資信託の場合、ファンドによっては上記の他、受託会社、保管受託銀行、管理事務代行会社の報酬、設立費用、監査費用等の費用も別途かかる場合、報酬額等に年間の最低金額が定められている場合があります。

なお、いずれも申込手数料はかかりません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等の詳細については「（参考）指定投資信

託証券について」をご覧ください。

なお、各ファンドの信託報酬に各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬（成功報酬を除く）を加えた、受益者が実質的に負担する信託報酬率（成功報酬を除く）について、NFR&Tが試算した概算値は以下の通りです。

ただし、この値はあくまでも実質的な信託報酬率の目安であり、各ファンドの実際の投資信託証券の組入れ状況等によっては、実質的な信託報酬率は変動します。

ファンド	実質的な信託報酬率（税込・年率）の概算値
ハッピーライフファンド・株25	1.20% ± 0.15%程度
ハッピーライフファンド・株50	1.30% ± 0.15%程度
ハッピーライフファンド・株100	1.65% ± 0.15%程度

各ファンドが投資対象とする投資信託証券には、信託報酬に成功報酬制を採用しているものがあり、これらの投資信託証券については、運用実績により成功報酬額も負担することになります。成功報酬を含む信託報酬等の詳細は「（参考）指定投資信託証券について」をご覧ください。

上記の実質的な信託報酬率の概算値は、平成22年5月21日現在のものであり、指定投資信託証券の変更等により今後変更となる場合があります。

5 運用状況

原届出書の 第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況 につきましては、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

以下は平成22年3月31日現在の運用状況であります。
また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)投資状況

「ハッピーライフファンド・株25」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	214,894,612	99.11
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1,916,052	0.88
合計(純資産総額)		216,810,664	100.00

「ハッピーライフファンド・株50」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	530,456,705	99.19
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		4,277,945	0.80
合計(純資産総額)		534,734,650	100.00

「ハッピーライフファンド・株100」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	367,551,404	99.26
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		2,719,782	0.73
合計(純資産総額)		370,271,186	100.00

(2)投資資産

投資有価証券の主要銘柄

以下に記載する投資信託受益証券の銘柄名は「(適格機関投資家専用)」を省略しております。

「ハッピーライフファンド・株25」

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価	簿価	評価	評価	投資
					単価	金額	単価	金額	
					(円)	(円)	(円)	(円)	(%)

1	日本	投資信託 受益証券	ノムラ日本債券オープンF	2,083	11,410	23,768,850	11,469	23,889,927	11.01
2	日本	投資信託 受益証券	ノムラ - インサイト欧州 債券ファンドF	1,577	11,463	18,078,160	11,851	18,689,027	8.61
3	日本	投資信託 受益証券	ノムラ - モンドリアン海 外債券ファンドF	1,494	10,365	15,485,375	10,753	16,064,982	7.40
4	日本	投資信託 受益証券	ステート・ストリート米 国総合債券 カレンシー・アルファ・ ファンドF	1,401	10,852	15,204,016	11,097	15,546,897	7.17
5	日本	投資信託 受益証券	ゴールドマン・サックス ・世界債券オープンF	1,284	11,564	14,848,273	11,953	15,347,652	7.07
6	日本	投資信託 受益証券	ノムラ海外債券ファンドF	1,214	10,275	12,474,675	10,481	12,723,934	5.86
7	日本	投資信託 受益証券	メロン米国コア・プラス 債券ファンドF	1,092	10,629	11,607,487	11,218	12,250,056	5.65
8	日本	投資信託 受益証券	ステート・ストリート欧 州総合債券 カレンシー・アルファ・ ファンドF	785	10,963	8,606,386	11,267	8,844,595	4.07
9	日本	投資信託 受益証券	FFTW世界債券オープンF	784	10,594	8,305,696	11,232	8,805,888	4.06
10	日本	投資信託 受益証券	TCW 米国債券ファンド F	697	9,916	6,911,939	10,049	7,004,153	3.23
11	日本	投資信託 受益証券	ドイチェ欧州債券ファン ドF	635	10,560	6,705,719	10,800	6,858,000	3.16
12	日本	投資信託 受益証券	ストラテジック・パ リユー・オープンF	847	6,654	5,636,481	7,010	5,937,470	2.73
13	日本	投資信託 受益証券	みずほ日本株バリュー ファンドF	840	6,178	5,189,918	6,544	5,496,960	2.53
14	日本	投資信託 受益証券	ノムラ - ブラックロック 米国債券オープンF	391	11,998	4,691,218	12,529	4,898,839	2.25
15	日本	投資信託 受益証券	東京海上日本成長株ファ ンドF	681	5,784	3,938,904	6,311	4,297,791	1.98
16	日本	投資信託 受益証券	JPMジャパン50・オープ ンF	415	9,473	3,931,698	10,309	4,278,235	1.97
17	日本	投資信託 受益証券	アイエヌジー・欧州債券 ファンドF	429	9,457	4,057,221	9,785	4,197,765	1.93
18	日本	投資信託 受益証券	ノムラ - アクサ・ローゼ ンバーグ日本株 バリューオープンF	337	11,819	3,983,138	12,341	4,158,917	1.91
19	日本	投資信託 受益証券	キャピタル・インターナ ショナル・ ジャパン・エクイティ・ ファンド F	696	5,532	3,850,933	5,910	4,113,360	1.89
20	日本	投資信託 受益証券	ピクテ・ジャパン・ファ ンドF	520	5,456	2,837,229	5,567	2,894,840	1.33
21	日本	投資信託 受益証券	ノムラ - レイニア米国成 長株ファンドF	218	12,038	2,624,311	13,263	2,891,334	1.33

22	日本	投資信託 受益証券	ゴールドマン・サックス ・アメリカン・ オープンF	295	8,368	2,468,604	9,380	2,767,100	1.27
23	日本	投資信託 受益証券	UBS海外株式ファンドF	237	9,120	2,161,477	10,325	2,447,025	1.12
24	日本	投資信託 受益証券	フィデリティ・ジャパン ・オープンF	215	10,390	2,234,024	11,092	2,384,780	1.09
25	日本	投資信託 受益証券	MFS欧州株ファンドF	276	7,200	1,987,205	8,218	2,268,168	1.04
26	日本	投資信託 受益証券	ノムラ・ジャパン・オー プンF	239	8,871	2,120,350	9,367	2,238,713	1.03
27	日本	投資信託 受益証券	リサーチ・アクティブ・ オープンF	198	9,571	1,895,167	10,433	2,065,734	0.95
28	日本	投資信託 受益証券	野村海外株式ファンドF	206	8,379	1,726,087	9,746	2,007,676	0.92
29	日本	投資信託 受益証券	ノムラ・ジャナス・イン テック海外株式 ファンドF	149	11,927	1,777,124	13,459	2,005,391	0.92
30	日本	投資信託 受益証券	東京海上・スレッドニー ドル欧州株式 ファンドF	149	9,992	1,488,826	10,699	1,594,151	0.73

「ハッピーライフファンド・株50」

順位	国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価	簿価	評価	評価	投資 比率 (%)
					単価 (円)	金額 (円)	単価 (円)	金額 (円)	
1	日本	投資信託 受益証券	ノムラ日本債券オー プンF	3,320	11,419	37,913,727	11,469	38,077,080	7.12
2	日本	投資信託 受益証券	ノムラ・インサイト 欧州債券ファンドF	2,435	11,466	27,922,120	11,851	28,857,185	5.39
3	日本	投資信託 受益証券	ストラテジック・バ リュウ・オープンF	4,096	6,683	27,374,823	7,010	28,712,960	5.36
4	日本	投資信託 受益証券	みずほ日本株バ リュウファンドF	4,107	6,194	25,442,694	6,544	26,876,208	5.02
5	日本	投資信託 受益証券	ノムラ・モンドリア ン海外債券ファンド F	2,382	10,376	24,717,984	10,753	25,613,646	4.78
6	日本	投資信託 受益証券	ゴールドマン・サッ クス・世界債券 オープンF	2,047	11,569	23,682,451	11,953	24,467,791	4.57

7	日本	投資信託受益証券	ステート・ストリート米国総合債券 カレンシー・アルファ・ファンドF	1,965	10,844	21,309,678	11,097	21,805,605	4.07
8	日本	投資信託受益証券	JPMジャパン50・オープンF	2,043	9,500	19,409,626	10,309	21,061,287	3.93
9	日本	投資信託受益証券	東京海上日本成長株ファンドF	3,243	5,801	18,815,705	6,311	20,466,573	3.82
10	日本	投資信託受益証券	ノムラ海外債券ファンドF	1,935	10,283	19,899,011	10,481	20,280,735	3.79
11	日本	投資信託受益証券	ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株 バリュウオープンF	1,617	11,836	19,138,943	12,341	19,955,397	3.73
12	日本	投資信託受益証券	キャピタル・インターナショナル・ ジャパン・エクイティ・ファンド F	3,322	5,551	18,440,986	5,910	19,633,020	3.67
13	日本	投資信託受益証券	メロン米国コア・プラス債券ファンドF	1,742	10,634	18,525,051	11,218	19,541,756	3.65
14	日本	投資信託受益証券	ピクテ・ジャパン・ファンドF	2,494	5,461	13,621,479	5,567	13,884,098	2.59
15	日本	投資信託受益証券	ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF	1,027	12,045	12,371,151	13,263	13,621,101	2.54
16	日本	投資信託受益証券	ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF	1,438	8,347	12,003,561	9,380	13,488,440	2.52
17	日本	投資信託受益証券	FFTW世界債券オープンF	1,158	10,594	12,267,852	11,232	13,006,656	2.43
18	日本	投資信託受益証券	ステート・ストリート欧州総合債券 カレンシー・アルファ・ファンドF	1,104	10,959	12,099,177	11,267	12,438,768	2.32
19	日本	投資信託受益証券	フィデリティ・ジャパン・オープンF	1,108	10,258	11,365,891	11,092	12,289,936	2.29
20	日本	投資信託受益証券	UBS海外株式ファンドF	1,144	9,056	10,360,872	10,325	11,811,800	2.20
21	日本	投資信託受益証券	ノムラ・ジャパン・オープンF	1,201	8,854	10,634,465	9,367	11,249,767	2.10

22	日本	投資信託受益証券	TCW 米国債券ファンドF	1,112	9,922	11,033,384	10,049	11,174,488	2.08
23	日本	投資信託受益証券	MFS欧州株ファンドF	1,348	7,195	9,698,977	8,218	11,077,864	2.07
24	日本	投資信託受益証券	ドイチェ欧州債券ファンドF	1,012	10,550	10,677,458	10,800	10,929,600	2.04
25	日本	投資信託受益証券	リサーチ・アクティブ・オープンF	1,034	9,545	9,870,309	10,433	10,787,722	2.01
26	日本	投資信託受益証券	ノムラ - ジャナス・インテック海外株式ファンドF	755	11,932	9,008,773	13,459	10,161,545	1.90
27	日本	投資信託受益証券	野村海外株式ファンドF	989	8,364	8,272,850	9,746	9,638,794	1.80
28	日本	投資信託受益証券	東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF	717	10,094	7,237,927	10,699	7,671,183	1.43
29	日本	投資信託受益証券	ノムラ - ブラックロック米国債券オープンF	598	12,006	7,180,174	12,529	7,492,342	1.40
30	日本	投資信託受益証券	アイエヌジー・欧州債券ファンドF	684	9,463	6,472,925	9,785	6,692,940	1.25

「ハッピーライフファンド・株100」

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	投資信託受益証券	ストラテジック・バリュール・オープンF	4,661	6,668	31,081,316	7,010	32,673,610	8.82
2	日本	投資信託受益証券	みずほ日本株バリュールファンドF	4,637	6,179	28,653,865	6,544	30,344,528	8.19
3	日本	投資信託受益証券	JPMジャパン50・オープンF	2,300	9,461	21,761,855	10,309	23,710,700	6.40
4	日本	投資信託受益証券	東京海上日本成長株ファンドF	3,645	5,807	21,168,916	6,311	23,003,595	6.21
5	日本	投資信託受益証券	ノムラ - アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュールオープンF	1,829	11,794	21,572,851	12,341	22,571,689	6.09

6	日本	投資信託受益証券	キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F	3,774	5,529	20,869,279	5,910	22,304,340	6.02
7	日本	投資信託受益証券	ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF	2,301	8,389	19,304,498	9,380	21,583,380	5.82
8	日本	投資信託受益証券	ノムラ・レイニア米国成長株ファンドF	1,593	12,036	19,174,601	13,263	21,127,959	5.70
9	日本	投資信託受益証券	UBS海外株式ファンドF	1,842	9,137	16,830,572	10,325	19,018,650	5.13
10	日本	投資信託受益証券	MFS欧州株ファンドF	2,167	7,226	15,659,088	8,218	17,808,406	4.80
11	日本	投資信託受益証券	ノムラ・ジャナス・インテック海外株式ファンドF	1,293	11,957	15,460,659	13,459	17,402,487	4.69
12	日本	投資信託受益証券	ピクテ・ジャパン・ファンドF	2,923	5,448	15,925,147	5,567	16,272,341	4.39
13	日本	投資信託受益証券	野村海外株式ファンドF	1,590	8,373	13,313,127	9,746	15,496,140	4.18
14	日本	投資信託受益証券	フィデリティ・ジャパン・オープンF	1,246	10,186	12,691,954	11,092	13,820,632	3.73
15	日本	投資信託受益証券	ノムラ・ジャパン・オープンF	1,308	8,874	11,607,274	9,367	12,252,036	3.30
16	日本	投資信託受益証券	東京海上・スレッドニードル 欧州株式ファンドF	1,134	9,979	11,316,613	10,699	12,132,666	3.27
17	日本	投資信託受益証券	リサーチ・アクティブ・オープンF	1,154	9,595	11,072,658	10,433	12,039,682	3.25
18	日本	投資信託受益証券	ノムラ・コロンビア米国株 バリュー・ファンドF	1,243	6,703	8,332,723	7,696	9,566,128	2.58
19	日本	投資信託受益証券	シュローダー・アジア・ パシフィック株式ファンドF	629	12,851	8,083,831	14,210	8,938,090	2.41
20	日本	投資信託受益証券	フィデリティ・中小型株・オープンF	484	11,700	5,662,800	12,454	6,027,736	1.62

21	日本	投資信託受益証券	ブラックロック日本株式アルファ・ティルツ・バリュール・ファンドF	433	11,026	4,774,487	11,591	5,018,903	1.35
22	日本	投資信託受益証券	ピクテ欧州ファンドF	518	7,397	3,831,661	8,567	4,437,706	1.19

種類別及び業種別投資比率

「ハッピーライフファンド・株25」

種類	業種	投資比率(%)
投資信託受益証券		99.11
合計		99.11

「ハッピーライフファンド・株50」

種類	業種	投資比率(%)
投資信託受益証券		99.19
合計		99.19

「ハッピーライフファンド・株100」

種類	業種	投資比率(%)
投資信託受益証券		99.26
合計		99.26

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(3)運用実績

純資産の推移

平成22年3月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

「ハッピーライフファンド・株25」

計算期間	純資産総額(百万円)		1口当たり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1期 (2007年8月29日)	31	31	0.9955	0.9955
第2期 (2008年8月29日)	116	116	0.9267	0.9267
第3期 (2009年8月31日)	185	185	0.9164	0.9164
2009年3月末日	147		0.8227	
4月末日	156		0.8396	
5月末日	163		0.8623	
6月末日	169		0.8764	
7月末日	176		0.8954	
8月末日	185		0.9164	
9月末日	189		0.9178	
10月末日	193		0.9142	
11月末日	194		0.9098	
12月末日	197		0.9265	
2010年1月末日	203		0.9319	
2月末日	208		0.9301	
3月末日	216		0.9554	

「ハッピーライフファンド・株50」

計算期間	純資産総額(百万円)		1口当たり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1期 (2007年8月29日)	63	63	1.0104	1.0114
第2期 (2008年8月29日)	262	262	0.8863	0.8863
第3期 (2009年8月31日)	440	440	0.8304	0.8304
2009年3月末日	324		0.7121	
4月末日	345		0.7328	
5月末日	377		0.7696	
6月末日	396		0.7824	
7月末日	415		0.8053	
8月末日	440		0.8304	

9月末日	446		0.8240
10月末日	453		0.8159
11月末日	456		0.8015
12月末日	483		0.8364
2010年1月末日	492		0.8373
2月末日	501		0.8324
3月末日	534		0.8752

「ハッピーライフファンド・株100」

計算期間	純資産総額(百万円)		1口当たり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1期 (2007年8月29日)	42	42	1.0374	1.0414
第2期 (2008年8月29日)	167	167	0.8135	0.8135
第3期 (2009年8月31日)	287	287	0.6771	0.6771
2009年3月末日	188		0.5354	
4月末日	207		0.5598	
5月末日	232		0.6101	
6月末日	246		0.6188	
7月末日	266		0.6470	
8月末日	287		0.6771	
9月末日	290		0.6660	
10月末日	290		0.6514	
11月末日	291		0.6312	
12月末日	324		0.6853	
2010年1月末日	329		0.6782	
2月末日	332		0.6709	
3月末日	370		0.7324	

分配の推移

「ハッピーライフファンド・株25」

期	1口当たりの分配金
第1期	0.0000 円
第2期	0.0000 円
第3期	0.0000 円

「ハッピーライフファンド・株50」

期	1口当たりの分配金
第1期	0.0010 円
第2期	0.0000 円
第3期	0.0000 円

「ハッピーライフファンド・株100」

期	1口当たりの分配金
第1期	0.0040 円
第2期	0.0000 円
第3期	0.0000 円

収益率の推移

「ハッピーライフファンド・株25」

期	収益率
第1期	0.5 %
第2期	6.9 %
第3期	1.1 %
第4期(中間期)	1.5 %

「ハッピーライフファンド・株50」

期	収益率
第1期	1.1 %
第2期	12.3 %
第3期	6.3 %
第4期(中間期)	0.2 %

「ハッピーライフファンド・株100」

期	収益率
第1期	4.1 %
第2期	21.6 %
第3期	16.8 %
第4期(中間期)	0.9 %

各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額、以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

第2【財務ハイライト情報】

原届出書の 第二部 ファンド情報 第2 財務ハイライト情報 の該当部分を以下のように訂正するとともに、末尾に添付のように「中間財務諸表」が追加されます。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

以下の情報は、「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」から抜粋して記載したものです。

ファンドの「財務諸表」については、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

また、当該監査法人による監査報告書は、「第三部 ファンドの詳細情報 第4ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」に添付されています。

<訂正後>

以下の情報は、「第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」および「中間財務諸表」から抜粋して記載したものです。

ファンドの「財務諸表」および「中間財務諸表」については、新日本有限責任監査法人による監査および中間監査を受けております。

また、当該監査法人による監査報告書および中間監査報告書は、「第三部 ファンドの詳細情報 第4ファンドの経理状況」に記載されている「財務諸表」および「中間財務諸表」に添付されています。

<中間財務諸表>

ハッピーライフファンド・株25(ライフプラン積立て向け)

1 中間貸借対照表

科目	期別	第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在 金額(円)	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在 金額(円)
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		1,835,824	2,807,763
投資信託受益証券		136,010,743	206,816,774
未収利息		5	8
流動資産合計		137,846,572	209,624,545
資産合計		137,846,572	209,624,545
負債の部			
流動負債			
未払金		3,969	34,446
未払受託者報酬		19,779	30,476
未払委託者報酬		421,887	650,034
その他未払費用		1,241	1,969
流動負債合計		446,876	716,925
負債合計		446,876	716,925
純資産の部			
元本等			
元本		170,011,698	224,619,305
剰余金			
中間剰余金又は中間欠損金()		32,612,002	15,711,685
(分配準備積立金)			13,541
元本等合計		137,399,696	208,907,620
純資産合計		137,399,696	208,907,620
負債純資産合計		137,846,572	209,624,545

2 中間損益及び剰余金計算書

期別	第3期中間計算期間 自平成20年8月30日 至平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年9月1日 至平成22年2月28日
科目	金額(円)	金額(円)
営業収益		
受取利息	3,864	1,728
有価証券売買等損益	16,523,612	3,547,110
その他収益		993
営業収益合計	16,519,748	3,549,831
営業費用		
受託者報酬	19,779	30,476
委託者報酬	421,887	650,034
その他費用	1,241	1,969
営業費用合計	442,907	682,479
営業利益	16,962,655	2,867,352
経常利益	16,962,655	2,867,352
中間純利益	16,962,655	2,867,352
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	942,469	35,739
期首剰余金又は期首欠損金()	9,235,746	16,937,683
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,054,594	1,724,105
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,054,594	1,724,105
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,410,664	3,329,720
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,410,664	3,329,720
分配金		
中間剰余金又は中間欠損金()	32,612,002	15,711,685

< 中間注記表 >

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自平成20年8月30日 至平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年9月1日 至平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日のため、平成20年8月30日から平成21年8月31日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成20年8月30日から平成21年2月28日までとなっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び当期末が休日のため、平成21年9月1日から平成22年8月30日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は前期末が休日のため、平成21年9月1日から平成22年2月28日までとなっております。

ハッピーライフファンド・株50(ライフプラン積立て向け)

1 中間貸借対照表

期別	第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在
科目	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	3,406,005	7,052,623
投資信託受益証券	294,870,217	496,729,733
未収利息	11	20
流動資産合計	298,276,233	503,782,376
資産合計	298,276,233	503,782,376
負債の部		
流動負債		
未払金		280,659
未払解約金		80,477
未払受託者報酬	43,341	72,864
未払委託者報酬	924,472	1,554,353

その他未払費用	4,274	7,227
流動負債合計	972,087	1,995,580
負債合計	972,087	1,995,580
純資産の部		
元本等		
元本	432,617,680	602,785,068
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	135,313,534	100,998,272
(分配準備積立金)		22,999
元本等合計	297,304,146	501,786,796
純資産合計	297,304,146	501,786,796
負債純資産合計	298,276,233	503,782,376

2 中間損益及び剰余金計算書

期別	第3期中間計算期間 自平成20年8月30日 至平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年9月1日 至平成22年2月28日
科目	金額(円)	金額(円)
営業収益		
受取利息	9,277	4,158
有価証券売買等損益	68,568,591	3,148,163
その他収益		1,509
営業収益合計	68,559,314	3,153,830
営業費用		
受託者報酬	43,341	72,864
委託者報酬	924,472	1,554,353
その他費用	4,274	7,227
営業費用合計	972,087	1,634,444
営業利益	69,531,401	1,519,386
経常利益	69,531,401	1,519,386
中間純利益	69,531,401	1,519,386
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	1,704,441	107,567
期首剰余金又は期首欠損金()	33,627,984	90,017,191
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,111,428	7,571,038
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	2,111,428	7,571,038
剰余金減少額又は欠損金増加額	35,970,018	20,179,072
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	35,970,018	20,179,072
分配金		
中間剰余金又は中間欠損金()	135,313,534	100,998,272

< 中間注記表 >

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自平成20年8月30日 至平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年9月1日 至平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日 のため、平成20年8月30日から平成21 年8月31日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成20年8 月30日から平成21年2月28日までと なっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び 当期末が休日のため、平成21年9月1 日から平成22年8月30日までとなっ ております。 なお、当該中間計算期間は前期末が 休日のため、平成21年9月1日から平 成22年2月28日までとなっております。

ハッピーライフファンド・株100(ライフプラン積立て向け)

1 中間貸借対照表

期別	第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在
科目	金額(円)	金額(円)
資産の部		

流動資産		
コール・ローン	2,346,318	3,761,189
投資信託受益証券	163,062,265	329,557,936
未収利息	7	10
流動資産合計	165,408,590	333,319,135
資産合計	165,408,590	333,319,135
負債の部		
流動負債		
未払金	8,195	
未払受託者報酬	24,818	47,903
未払委託者報酬	653,418	1,261,383
その他未払費用	2,420	4,732
流動負債合計	688,851	1,314,018
負債合計	688,851	1,314,018
純資産の部		
元本等		
元本	328,715,653	494,839,337
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	163,995,914	162,834,220
元本等合計	164,719,739	332,005,117
純資産合計	164,719,739	332,005,117
負債純資産合計	165,408,590	333,319,135

2 中間損益及び剰余金計算書

期別	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1日 至 平成22年2月28日
科目	金額(円)	金額(円)
営業収益		
受取利息	5,955	2,825
有価証券売買等損益	76,920,038	971,772
その他収益		2,264
営業収益合計	76,914,083	966,683
営業費用		
受託者報酬	24,818	47,903
委託者報酬	653,418	1,261,383
その他費用	2,420	4,732
営業費用合計	680,656	1,314,018
営業利益	77,594,739	2,280,701
経常利益	77,594,739	2,280,701
中間純利益	77,594,739	2,280,701
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	966,973	115,484
期首剰余金又は期首欠損金()	38,492,281	137,132,722
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,250,232	8,752,428
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,250,232	8,752,428
剰余金減少額又は欠損金増加額	50,126,099	32,288,709
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	50,126,099	32,288,709
分配金		
中間剰余金又は中間欠損金()	163,995,914	162,834,220

< 中間注記表 >

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1日 至 平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日 のため、平成20年8月30日から平成21 年8月31日までとなっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び 当期末が休日のため、平成21年9月 1 日から平成22年8月30日までとなって おります。

	なお、当該中間計算期間は、平成20年8月30日から平成21年2月28日までとなっております。	なお、当該中間計算期間は前期末が休日のため、平成21年9月1日から平成22年2月28日までとなっております。
--	--	--

第三部【ファンドの詳細情報】

第4【ファンドの経理状況】

1 財務諸表

原届出書の 第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況 1 財務諸表 につきましては、以下の「中間財務諸表」が追加されます。

< 中間財務諸表 >

ハッピーライフファンド・株25(ライフプラン積立て向け)

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については内閣府令第50号附則第4条第1項第1号により、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。

投資信託財産計算規則は、平成21年6月24日付内閣府令第35号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)については改正前の投資信託財産計算規則に基づき作成しており、第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については改正後の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。

また、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

1 ノムラ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ・ジャパン・オープンマザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、TOPIXをベンチマークとします。

ファンドは、「ノムラ・ジャパン・オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.90825%（税抜年0.865%）の率を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

運用については、ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行いません。

わが国の株式への投資にあたっては、上場株式および店頭登録銘柄の中から、株価の割安性をベースに企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行なうことを基本とします。なお、一部、アジア諸国の株式に投資を行なう場合があります。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。ただし、市場動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合もあります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

2 リサーチ・アクティブ・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるリサーチ・アクティブ・オープンマザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の中・長期的な成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、TOPIXをベンチマークとします。

ファンドは、「リサーチ・アクティブ・オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	住友信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.67725%（税抜年0.645%）以内の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

わが国の株式を実質的な投資対象とします。

(2) 投資態度

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中・長期的な成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

株式への投資に当っては、厳選した業績成長企業群（今期あるいは来期の利益成長が期待できる企業や将来の収益成長が期待できる企業等）に中・長期的な視野から投資します。

非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行ないません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

3 ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュオープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュオープンマザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、TOPIX（配当込み）をベンチマークとします。

ファンドは、「ノムラ・アクサ・ローゼンバーグ日本株バリュオープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月22日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.6825%（税抜年0.65%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格（「適正価格」といいます。）に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを安定的に上回る運用を目指します。

銘柄選択から売買指示に至る一連の投資意思決定プロセスは、主として、委託者が運用の指図に関する権限を一部委託する者が独自に開発した定量分析・評価モデル（「クオンツモデル」といいます。以下同じ。）により行なうことを基本とします。

割安株の選別にあたっては、銘柄選択用のクオンツモデル等により、個別企業の財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の各項目および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するというボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

ポートフォリオの構築にあたっては、主として、リスク分析用のクオンツモデルにより、ベンチマークに対するリスク特性を計測し、ベンチマークに対する相対リスクをコントロールすることを基本とします。

株式の実質的な組み入れにあたっては、フルインベストメントを基本とします。非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。

マザーファンドの運用に当たっては、アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社に、国内株式の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行ないません。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

4 ストラテジック・バリュー・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるストラテジック・バリュー・オープンマザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、「ストラテジック・バリュー・オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成19年10月11日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	住友信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.63%（税抜年0.60%）の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

株式への投資にあたっては、わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、資産・利益等に比較して株価が割安と判断され、今後の株価上昇が期待できる銘柄を厳選し、投資を行なうことを基本とします。

株式の実質的な組入にあたっては、フルインベストメントを基本とします。非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。ただし、投資環境、資金動向などを勘案して、運用担当者が適切と判断した際等には先物取引の利用も含めて株式組入比率を引き上げる場合があります。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

5 野村RAFI[®]日本株投信F（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である野村RAFI[®]日本株投信マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、「野村RAFI[®]日本株投信マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、株式に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成22年4月8日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.42%（税抜年0.40%）の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、ファンダメンタル・インデックス構成手法 を活用して、委託会社が独自に銘柄・ウェイトを選定・計算し、これをベースに株式ポートフォリオを構成することを基本とします。

当該手法は、株主資本、配当額、キャッシュフロー等のファンダメンタル指標をもとに銘柄のウェイト付けを行なう運用手法で、2010年2月現在、リサーチ・アフィリエイツ社（Research Affiliates, LLC）が知的所有権を申請中です。株式の実質組入比率は高位を基本とします。

非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下とすることを基本とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

「RAFI[®]」は、Research Affiliates, LLCの登録商標であり、野村アセットマネジメント株式会社はその使用を許諾されております。

リサーチ・アフィリエイツ社は、野村アセットマネジメントがファンドまたはアカウントの運用のために用いるRAFインデックスの収益性、有効性に関して、明示的であると黙示的であると問わず、一切の表明または保証を行なうものではなく、いかなる責任も負わないことを明記します。

6 みずほ日本株バリュートマザーファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である「みずほ日本株バリュートマザーファンド」への投資を通じて、わが国の株式を実質的な投資対象とし、信託財産の中・長期的な成長を目指します。ファンドは、TOPIX（配当込み）をベンチマークとします。ファンドは、「みずほ日本株バリュートマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、この他わが国の株式へ直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成19年10月11日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	みずほ投信投資顧問株式会社
受託会社	みずほ信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.5775%（税抜年0.55%）の率を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（1）投資対象

わが国の金融商品取引所に上場している株式（これに準ずる市場を含む）を実質的な主要投資対象とします。

（2）投資態度

わが国の金融商品取引所に上場している株式（これに準ずる市場を含む）を主要投資対象とし、信託財産の中・長期的な成長を目指して運用を行います。

TOPIX（配当込み）を運用上のベンチマークとし、個別企業のファンダメンタルズ調査・予測に基づく銘柄選択により超過収益の獲得を目指すボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行います。

ベンチマークは、わが国の株式市場の構造変化、インデックスの改廃等によっては今後見直す場合があります。

株式への投資にあたっては、企業の将来的なフリーキャッシュフロー対比で割安な銘柄の選定を行うことを基本とします。

株式への実質投資割合は、原則として高位を維持します。

現物株式の実質組入比率は、通常の状態では50%以上とすることを基本とします。

非株式（株式以外の資産）への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

マザーファンドの運用に関しては、みずほ信託銀行株式会社より投資助言を受けます。

市場動向および資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（3）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以下とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

7 JPMジャパン50・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるJPMジャパン50・オープン・マザーファンド（適格機関投資家専用）（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。

ファンドは、主にわが国の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指します。ファンドの運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行います。

アナリストの調査・分析活動においては、「JPM日本株式ストラテジー」独自の業種分類に基づき、調査対象企業の長期的な業績予想を行います。

ポートフォリオの構築にあたっては、アナリストやポートフォリオ・マネジャーの定性的な判断（主観的判断）のみに頼ることなく、配当割引モデル（DDM）等を通じてその修正を行います。

ベンチマークであるTOPIX（配当込み）に対するリスクを一定水準に保ちつつ、安定した超過収益を積み上げることを目指します。

（B）信託期間

無期限（平成16年11月18日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日信託財産の純資産総額に年率0.8505%（税抜0.81%）を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、ファンドの監査費用については、実際に支払う金額を支払う方法に代えて、信託財産の純資産総額に年率0.021%（税抜0.02%）を乗じて得た額（ただし、年間315万円（税抜300万円）を上限とします。）を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざした運用を行います。

株式以外の資産への実質的な投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむを得ない事情が発生した場合には上記のような運用が出来ない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への投資には、制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定します。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

8 フィデリティ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるフィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。）に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式に実質的に投資を行ない、投資信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、TOPIX（配当金込）をベンチマークとします。

ファンドは、「フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	フィデリティ投信株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に年0.924%（税抜年0.88%）以内の率を乗じて得た額とします。（なお、税法が改正された場合等には、前記数値が変更になることがあります。）

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を投資信託財産から支払います。その他、投資信託財産に係る監査費用等を投資信託財産の純資産総額に対して年率0.10%（税込み）を上限として投資信託財産から支払う場合があります（なお、当該上限率については変更する場合があります。）。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

わが国の取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式を実質的に主要な投資対象とします。

(2) 投資態度（マザーファンドの投資態度を含みます。）

主としてわが国の株式に投資します。ただし、日本株式とその他のアジアの株式を比較し、その相対的な投資魅力の状況によってはその他のアジアの株式にも投資することができます。ファンドは通常ポートフォリオの少なくとも65%を日本株式に投資します。

企業を実地に訪問し、徹底した調査にもとづき個別銘柄を選別する「ボトム・アップ・アプローチ」により運用を行いません。

フルインベストメントを基本とします。

資金動向、市況動向、残存信託期間等の事情によっては、上記のような運用ができない場合もあります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の30%以下とします。

マザーファンド受益証券以外の投資信託証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。

9 アライアンス・バーンスタイン・日本バリュース株投信F（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるアライアンス・バーンスタイン・日本バリュース株マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に分散投資することにより、長期的な信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。

ファンドはTOPIX（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとします。

ファンドは、「アライアンス・バーンスタイン・日本バリュース株マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成22年4月8日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	アライアンス・バーンスタイン株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー アライアンス・バーンスタイン・リミテッド アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッド アライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.5775%（税抜年0.55%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬の中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等を信託財産の純資産総額に対して年率0.10%を上限として信託財産から支払います（なお、当該上限率については変更する場合があります）。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に分散投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

ファンダメンタル分析と定量分析の二つの観点を融合させたボトムアップによる個別銘柄選択をもとにバリュー株式運用を行います。

株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。

株式以外の資産への実質的な投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

次の投資顧問会社にマザーファンドの運用の指図に関する権限の一部を委託します。

- ・アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
- ・アライアンス・バーンスタイン・リミテッド
- ・アライアンス・バーンスタイン・オーストラリア・リミテッド
- ・アライアンス・バーンスタイン・香港・リミテッド

当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市場動向等に急激な変化が生じたときまたは予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむをえない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

実質外貨建資産への投資は行いません。

投資信託証券（マザーファンド受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

10 ピクテ・ジャパン・ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、主としてピクテ・ジャパン・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。

東証株価指数をベンチマークとします。

ファンドは、「ピクテ・ジャパン・マザーファンド」を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資を行う場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成18年11月16日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ピクテ投信投資顧問株式会社
受託会社	住友信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.8505%（税抜年0.81%）の率を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（1）投資対象

わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式を実質的な主要投資対象とします。

（2）投資態度

組入銘柄の選択にあたっては、企業訪問を基本とした調査活動を行い、成長率と企業評価価値から割安と考えられる銘柄に着目します。

利益成長の源泉が明快な企業を選別し、ボトムアップ100%の一貫したグロース運用を行います。

成長パターンを3分類し、成長株の変化を的確に捉えた銘柄選択を行いません。

株式の実質組入比率は、高位に維持することを基本とします。

東証株価指数をベンチマークとします。

非株式割合（他の投資信託受益証券を通じて投資する場合は、当該他の投資信託の信託財産に属する株式以外の資産のうち、この投資信託の信託財産に属するとみなした部分を含みます。）は、原則として信託財産総額の50%未満とします。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（3）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

11 東京海上日本成長株ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である「東京海上日本成長株マザーファンド」への投資を通じて、主として金融商品取引所に上場されている株式（これらに準じるものを含みます。）に実質的に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとして、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目標とします。

ファンドは、「東京海上日本成長株マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成18年11月16日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	東京海上アセットマネジメント投信株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.609%（税抜年0.58%）の率を乗じて得た額とします。（なお、税法が変更・改正された場合には、前記数値が変更になることがあります。）

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に売買委託手数料、投資信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

金融商品取引所に上場されている株式（これらに準じるものを含みます。）を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度（マザーファンドの投資態度を含みます。）

主に金融商品取引所に上場されている株式（これらに準じるものを含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとし、「セクター判断(業種配分)」と「銘柄選択」を超過収益の源泉として、これを上回る投資成果を目指します。

「セクター判断(業種配分)」については、当社独自の業種分類により、アナリストによる定性判断、モデルによる定量判断をもとに、ファンドマネジャーがセクター間の相对比较等を考慮して決定します。

一方「銘柄選択」においては、アナリストが徹底的な調査に基づき「事業環境の予測」や「競争優位の評価」を主な着眼点として中期的な業績を予測するとともに、株価面での魅力度等も総合的に判断し、セクター内の相対優位評価を行います。

これらに加え、ファンドマネジャー(トップダウン)とアナリスト(ボトムアップ)による複眼的な議論の中から生まれる「投資アイデア」も加味し、最適なポートフォリオを構築します。

株式以外の資産への投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用が出来ない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以下とします。

マザーファンド受益証券を除く投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

12 キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・ファンド F（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である「キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・マザーファンド」への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行い、信託財産の積極的な成長を目指して運用を行うことを基本とします。

ファンドは、TOPIX（配当込み）をベンチマークとします。

ファンドは、「キャピタル・インターナショナル・ジャパン・エクイティ・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

キャピタル・グループの運用の特徴・・・

“徹底した個別銘柄調査”、“現地調査とグローバル・アプローチの融合”、“長期投資”、“マルチ・ファンド・マネジャー・システムによる多様なアイデアの反映と運用の継続性”などが挙げられます。その中でも特徴的な“マルチ・ファンド・マネジャー・システム”は、1つのアカウントの運用において、複数のファンド・マネジャーが各々独自の裁量で行った投資判断を反映し、最終的なポートフォリオを構築するものであり、さまざまな投資環境において市場を上回る成果の達成を目指します。

（マルチ・ファンド・マネジャー・システムは1958年からキャピタル・グループにおいて採用されています。）

（B）信託期間

無期限（平成19年4月5日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	キャピタル・インターナショナル株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.60375%（税抜年0.575%）の率を乗じて得た額とします。信託財産に係る監査費用については、上限を年額58万8千円（税抜56万円）とし日々計上します。またその他の費用（ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務に係る諸費用等）等についても信託財産から支払います。上記その他の費用については運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限等を記載することができません。

（E）投資方針等

（１）投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

主としてわが国の証券取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。）（これに準ずるものを含む）に上場されている株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含む）を主要投資対象とします。

運用については、マイクロ・ファンダメンタルズ調査に基づく銘柄選択により超過収益の獲得を目指す、ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行います。

投資に当たっては、上場株式等の中から、企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行うことを基本とします。

株式の実質組入比率は、高位を維持することを基本とします。

非株式割合（株式以外の資産への実質投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合もあります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

マザーファンドを除く投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以下とします。

デリバティブ取引は主にヘッジ目的で使用しますが、市況動向等によってはヘッジ目的以外で使用する場合があります。

13 野村海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である野村海外株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く世界主要先進国の株式に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行ないます。

ファンドはMSCI-KOKUSAI指数（円ベース・為替ヘッジあり）をベンチマークとします。

「MSCI-KOKUSAI指数（円ベース・為替ヘッジあり）」は、MSCI-KOKUSAI指数をもとに、委託者が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは「野村海外株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接有価証券に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成20年4月10日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.8925%（税抜年0.85%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本を除く世界主要先進国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

銘柄の選定に当っては、独自のボトムアップ調査を通じて、高成長かつ割安な銘柄をグローバルな観点で識別します。また、国別・産業別配分に配慮し、幅広く分散投資を行ないます。

株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

14 ノムラ - ジャナス・インテック海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - ジャナス・インテック海外株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く先進国の株式に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドはMSCI-KOKUSAI指数(円ベース・為替ヘッジあり) をベンチマークとします。

「MSCI-KOKUSAI指数(円ベース・為替ヘッジあり)」は、MSCI-KOKUSAI指数をもとに、委託会社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「ノムラ - ジャナス・インテック海外株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、株式等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成21年4月9日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	インテック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー

インテック・インベストメント・マネジメント・エルエルシーは、マザーファンドの運用に関する事務業務の一部をジャナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシーに代行させます。

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.86625%（税抜年0.825%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本を除く先進国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

株式への投資にあたっては、数学的手法に基づいた株価変動を利用する運用手法とリスク・コントロール手法によりポートフォリオを構築し、付加価値の獲得を目指します。

株式の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

インテック・インベストメント・マネジメント・エルエルシーにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

15 ノムラ - コロンビア米国株バリュース・ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - コロンビア米国株バリュース・ファンド マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として米国の株式（DR（預託証券）を含みます。）に実質的に投資し、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドはS&P500株価指数（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

「S&P500株価指数（円ヘッジベース）」は、S&P500株価指数（ドルベース）をもとに、委託者が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは「ノムラ - コロンビア米国株バリュース・ファンド マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接有価証券に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成19年10月11日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	コロンビア・マネジメント・アドバイザーズ・エル・エル・シー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.8715%（税抜年0.83%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

米国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

株式への投資にあたっては、個別企業やその企業が属する業種・業界の変化を捉え、ファンダメンタルズの改善が見られ株価が割安と判断される企業の株式に投資を行いません。

株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

コロンビア・マネジメント・アドバイザーズ・エル・エル・シーにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

上記は、平成22年4月21日現在で委託会社が知りうる情報等を基に記載したものです。

16 ノムラ - レイニア米国成長株ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - レイニア米国成長株ファンド マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として米国の株式（DR（預託証書）を含みます。）に実質的に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドはS&P500株価指数（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

「S&P500株価指数（円ヘッジベース）」は、S&P500株価指数（ドルベース）をもとに、委託者が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「ノムラ - レイニア米国成長株ファンド マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、株式等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成21年4月9日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	レイニア・インベストメント・マネジメント・インク

レイニア・インベストメント・マネジメント・インクは、委託会社に対する約定の報告等事務業務の一部をThe Bank of New York Mellonに代行させます。

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.84%（税抜年0.80%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

米国の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

株式への投資にあたっては、ファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップ・アプローチを重視します。

銘柄の選定は、成長性の観点に加え、バリュエーション等の観点から個別銘柄の分析・評価をし、流動性等を勘案して行ないます。

株式の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

レイニア・インベストメント・マネジメント・インクにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

17 シュロダー・アジア・パシフィック株式ファンドF（適格機関投資家専用）

(A) ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるシュロダー・アジア・パシフィック株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式に実質的に投資し、信託財産の長期的な成長を目的とした運用を行います。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

ファンドは、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）をベンチマークとします。ファンドのベンチマークは、投資対象地域の株式市場の構造変化等によっては見直す場合があります。

MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）は、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（米ドルベース）をもとに、委託会社が独自に為替ヘッジコストを考慮して算出したものです。

MSCI Inc. が作成したものではありません。

ファンドは、「シュロダー・アジア・パシフィック株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

(B) 信託期間

無期限（平成21年4月9日設定）

(C) ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	シュロダー証券投信投資顧問株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	シュロダー・インベストメント・マネージメント（シンガポール）リミテッド

(D) 管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.7875%（税抜年0.75%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受け取る報酬は信託財産から直接支払うことは行わず、委託会社が受け取る報酬の中から支払います。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および信託事務の諸費用（監査費用を含みます）を信託財産から支払います。

(E) 投資方針等

(1) 投資対象

香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式を実質的な主要投資対象とします。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

(2) 投資態度

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式への投資を行います。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

運用にあたっては、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）をベンチマークとします。ファンドのベンチマークは、投資対象地域の株式市場の構造変化等によっては見直す場合があります。

株式への実質投資にあたっては、企業訪問等による調査・分析に基づいて組入銘柄の選定を行い、各国の市場動向やマクロ経済環境等を考慮し国別配分の調整を行います。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

株式の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。

マザーファンドの運用にあたっては、シュローダー・インベストメント・マネージメント（シンガポール）リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

デリバティブの利用は、原則としてヘッジ目的に限定します。

18 ゴールドマン・サックス・アメリカン・オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるゴールドマン・サックス・アメリカン・オープン・マザーファンドへの投資を通じて、主として米国株式の個別銘柄に実質的に投資を行ない、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行ないます。

ファンドは、S&P500種株価指数を委託会社が円ヘッジベースに換算した指数をベンチマークとします。

ファンドはファミリーファンド方式で運用します。なお、直接有価証券に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（GSAMニューヨーク）

（D）管理報酬等

（1）信託報酬

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.91875%（税抜年0.875%）の率を乗じて得た額とします。なお、ファンドおよびマザーファンドの各投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

（2）その他

上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等として信託財産の純資産総額に対して年率0.05%を信託財産から支払います（なお、当該率については、年率0.05%を上限として変更する場合があります。）。

（E）投資方針等

（１）投資対象

米国株式の個別銘柄を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

米国株式の個別銘柄を中心に投資し、株式等の実質組入比率を高位に保ちながら、長期的に米国株式市場のもたらすリターンを享受することを目指します。

個別銘柄の選択は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを使用します。定量分析と定性分析による情報を計量モデルに取り込むことにより魅力的と考えられる銘柄を発掘し、ベンチマークからの乖離リスクを計量的に管理しながらポートフォリオを構築、かつその最適化を目指します。

実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（GSAMニューヨーク）にファンドおよびマザーファンドの米国株式および為替の運用の指図に関する権限を委託します。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。

投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

19 ピクテ欧州ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、ピクテ欧州ファンド・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として欧州各国の株式に実質的に投資を行い、信託財産の長期的成長を図ることを目的として運用を行います。

ファンドはMSCI欧州株価指数（円ヘッジ指数）をベンチマークとします。

ファンドは「ピクテ欧州ファンド・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資を行う場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ピクテ投信投資顧問株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.8925%（税抜年0.85%）の率を乗じて得た額とします。なお、ファンドおよびマザーファンドの各投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

欧州各国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

欧州各国の株式を主要投資対象とし、分散投資を行ない、信託財産の長期的成長を図ることを目的として運用を行ないません。

株式への実質投資割合は、株式100%を基本とします。

株式への投資にあたっては、企業のファンダメンタル分析等に基づくボトムアップアプローチにより銘柄を発掘し、投資することを基本とします。

株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。なお、投資対象市場が休場等の場合や市況動向、資金動向等によっては、一時的に投資割合を引き下げることがあります。

実質外貨建資産については、組入れているピクテ欧州ファンド・マザーファンドの通貨配分の如何にかかわらず、原則としてマザーファンドのベンチマークの通貨配分をベースに対円での為替ヘッジを行うことを基本とします。

ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッドにファンドおよびマザーファンドの株式の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、為替ヘッジも含め、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券(マザーファンド受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

有価証券先物取引等はヘッジ目的に限定します。

20 東京海上・スレッドニードル欧州株式ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である東京海上・スレッドニードル欧州株式マザーファンドへの投資を通じて、主として欧州の取引所に上場されている株式等に実質的に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

ファンドは、MSCIヨーロッパインデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「東京海上・スレッドニードル欧州株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、有価証券等の資産に直接投資することがあります。

（B）信託期間

無期限（平成21年10月8日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	東京海上アセットマネジメント投信株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	スレッドニードル・アセット・マネジメント・リミテッド

スレッドニードル・アセット・マネジメント・リミテッドは、委託会社に対する約定の報告等事務業務の一部をジェイ・ピー・モルガン・チェースバンク・ナショナル・アソシエーションに代行させます。

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.84%（税抜年0.80%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、投資信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

欧州の取引所に上場されている株式等を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度（マザーファンドの投資態度を含みます。）

主として欧州の取引所に上場されている株式等を実質的に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

スレッドニードル・アセット・マネジメント・リミテッドにマザーファンドの欧州の株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

マザーファンドの運用にあたっては、企業のファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップ・アプローチを重視した銘柄選択により、アクティブに投資することを基本とします。

MSCIヨーロッパインデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指します。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

資金動向、市況動向、残存期間等の事情によっては、上記のような運用が出来ない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

マザーファンド受益証券等を除く投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

21 UBS海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるUBSグローバル株式（除く日本）ファンド・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてMSCIコクサイ（日本を除く世界）インデックスを構成する世界の株式市場における発行体の株式等に投資を行い、アクティブに運用することにより、信託財産の成長を目指します。

ファンドは、MSCIコクサイ（日本を除く世界）インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「UBSグローバル株式（除く日本）ファンド・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成17年10月13日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ユービーエス・グローバル・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.9765%（税抜年0.93%）の率を乗じて得た金額とします。なお、投資顧問会社が受ける報酬は、委託会社報酬から支弁するものとします。

上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

日本を除く世界各国の株式を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

日本を除く世界の株式に投資を行い、アクティブに運用することにより、信託財産の成長を目指します。

投資プロセスは、個別銘柄選択、産業配分、国別配分、通貨配分の４つの側面から成ります。

実質外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。実質外貨建資産に係る為替ヘッジは、原則としてマザーファンドのベンチマークであるMSCI コクサイ（日本を除く世界）インデックスの資産配分と同程度として行いますが、一部の通貨に対しては先進主要国通貨等の他通貨を用いた代替ヘッジを行う場合があります。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市場動向等により、弾力的に変更を行う場合があります。

UBSグローバル・アセット・マネジメント（UK）リミテッドに実質的な運用指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

22 MFS欧州株ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

MFS欧州株マザーファンド受益証券への投資を通じて、欧州の証券取引所に上場（これに準じるものを含みます。）されている株式を中心に投資し、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドはMSCI ヨーロッパ インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「MFS欧州株マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成19年4月5日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	エムエフエス・インベストメント・マネジメント株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に年0.7875%（税抜0.75%）の率を乗じて得た金額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、投資信託財産に係る監査費用等を投資信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（1）投資対象

欧州の証券取引所に上場（これに準じるものを含みます。）されている株式を実質的な主要投資対象とします。

（2）投資態度

欧州の証券取引所に上場（これに準じるものを含みます。）されている株式を実質的な主要投資対象とし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。

マザーファンドにおける具体的な銘柄の選定にあたっては、「独自のリサーチによる個別企業のファンダメンタル分析に基づく銘柄選択こそが、優れた運用成果を中長期的に獲得するための最良の運用手法である」との投資哲学のもと、徹底したボトムアップ・アプローチによりアクティブに投資を行います。実際に企業リサーチを行うアナリスト自身が“ベスト・アイデア銘柄”を持ち寄ってポートフォリオを運用します。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。なお、為替ヘッジは、原則としてマザーファンドのベンチマークであるMSCIヨーロッパインデックスの通貨配分に準じて行います。

マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニーにマザーファンドの運用の指図（国内の短期金融資産の運用の指図に係る権限を除きます。）ならびにファンドの為替ヘッジの指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（3）主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

23 ノムラ海外債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ海外債券ファンド マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く世界の公社債に実質的に投資し、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

「パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）」は、「パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス」を委託会社が為替ヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「ノムラ海外債券ファンドマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、公社債等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成21年5月20日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	ノムラ・アセット・マネジメントU.K.リミテッド ノムラ・グローバル・アルファ・エルエルシー

ノムラ・グローバル・アルファ・エルエルシーは、委託会社に対する約定の報告等事務業務の一部をノムラ・アセット・マネジメントU.S.A.インクに代行させます。

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.3885%（税抜年0.37%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本を除く世界の公社債（国債、政府保証債、政府機関債、準政府債（州政府債）、国際機関債、社債、モーゲージ証券等）を
実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

ポートフォリオの構築にあたっては、原則として、投資時点においてBBB-格相当以上の格付（投資適格格付）を有する公社債、
または同等の信用度を有すると判断される公社債を組入れることを基本とします。

ポートフォリオのデュレーションは、ベンチマーク±2年程度の範囲内に維持することを基本とします。

ポートフォリオのデュレーションのコントロール等のために債券先物取引等のデリバティブを活用する場合があります。

マザーファンドにおける外貨のエクスポージャーの調整にあたっては、為替予約取引等を利用し、ロング・ポジションと
ショート・ポジションを構築します。

実質組入外貨建資産については、原則としてマザーファンドの通貨配分の如何に関わらず、マザーファンドのベンチマーク
の通貨配分をベースに対円で為替ヘッジを行なうことを基本とします。

マザーファンドのベンチマークは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算
ベース）です。

マザーファンドの運用にあたっては、ノムラ・アセット・マネジメントU.K.リミテッドおよびノムラ・グローバル・アルファ
・エルエルシーに運用の指図に関する権限の一部を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

外国為替予約取引の利用はヘッジ目的に限定しません。

株式への直接投資は行いません。株式への投資は、優先証券のうち株券または新株引受権証書の性質を有するものまたは転
換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）を行使したものに限り、株式への
実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

24 ノムラ - モンドリアン海外債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - モンドリアン海外債券ファンド マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を除く世界先進主要国の公社債に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長とインカムゲインの確保を目標に運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

「パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）」は、「パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス」を委託会社が為替ヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは「ノムラ - モンドリアン海外債券ファンド マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、公社債等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成21年5月20日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	モンドリアン・インベストメント・パートナーズ・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.7875%（税抜年0.75%）以内の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本を除く世界先進主要国の公社債を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

公社債への投資にあたっては、独自のモデルを活用した定量分析及び定性判断等に基づいて、国別配分、通貨配分、銘柄選択等を行ないポートフォリオを構築し、収益の獲得を目指します。

マザーファンドにおける通貨配分については、為替予約取引等を用いて債券の国別配分とは独立した通貨配分戦略を行なう場合があります。

実質組入外貨建資産については、原則としてマザーファンドの通貨配分の如何に関わらず、マザーファンドのベンチマークの通貨配分をベースに対円で為替ヘッジを行なうことを基本とします。

マザーファンドのベンチマークは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算ベース）です。

モンドリアン・インベストメント・パートナーズ・リミテッドにマザーファンドの海外の公社債等（含む金融商品）の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

株式への直接投資は行ないません。株式への投資は優先証券のうち株券または新株引受権証書の性質を有するもの、または転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り、）を行使したものに限り、株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以内とします。

25 ノムラ - ブラックロック米国債券オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - ブラックロック米国債券オープンマザーファンドへの投資を通じて、主として米国ドル建ての公社債に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長を目標に運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）は、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（米国ドルベース）を委託者が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「ノムラ - ブラックロック米国債券オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接公社債等に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月14日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	ブラックロック・ファイナンシャル・マネジメント・インク

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.42%（税抜年0.40%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

米国ドル建の公社債を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

公社債への投資にあたっては、主として、（ ）米国の国債（政府機関債を含む。以下同じ。）（以下「米国国債」といいます。）、（ ）会社およびその他の発行体によって発行された債券（以下「社債」といいます。）および（ ）アセット・バック証券の、3つのセクターの証券に配分し、信用格付の高い証券を中心に投資することを基本とします。

ファンドは、米国国債、社債およびアセット・バック証券の、3つのセクターの証券を、バランス良く配分したポートフォリオを維持することを基本とします。ただし、その投資割合は、市況動向、市場環境および他の要因を勘案して、適宜、機動的に変更します。なお、市況動向等を勘案し、米国国債、社債またはアセット・バック証券のいずれかにその資産の100%を上限として投資する場合があります。

ファンドの投資戦略および意思決定プロセスにおいては、以下の点に主として重点をおきます。

- （ ）相対価値に基づくセクター・ローテーションおよび銘柄の選択
- （ ）デュレーション管理
- （ ）個別銘柄およびポートフォリオのバリュエーションに関する厳密な定量分析
- （ ）徹底した信用分析

米国国債への投資に関しては、主として、米国の政府および政府機関によって発行または、元本および利息の支払いが保証されている債券に投資します。

社債投資に関しては、分散ポートフォリオを構築・維持することを基本とし、投資機会の獲得と投資リスクの最小化を行なうためにクレジット調査・分析を含む専門的投資技術・知識を活用することを基本とします。

アセット・バック証券への投資に関しては、分散ポートフォリオを構築・維持することを基本とします。アセット・バック証券のセクター配分および個別銘柄の選択にあたっては、各セクターや個別銘柄のリターンおよびリスク特性の分析に基づき行なうことを基本とし、適宜機動的に変更します。

ファンド全体のデュレーションは、通常、米国債券の市場指標のデュレーションを中心としてその±20%の変動幅の範囲内に維持することを基本とします。ただし、投資環境、市況動向、資金動向等を勘案し、委託者が必要と判断した場合は、一時的に上記の範囲を超える場合があります。

投資する証券は、主として、投資適格格付が付与されているもの、または同等の信用度を有すると判断されるものとし、ただし、信託財産の純資産総額の10%を限度として原則としてB格相当以上の投資適格格付未滿の証券へ投資できるものとします。

投資する外貨建資産は、主として米国ドル建の公社債等とし、米国ドル建以外の外貨建資産の実質投資割合は信託財産の純資産総額の原則として10%以内とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

マザーファンドにおいては、外貨建資産のうち、米国ドル建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。米国ドル建以外の外貨建資産については、当該資産を米国ドルに為替ヘッジを行なうことと同等の効果が得られる為替予約を行なうことができます。

ブラックロック・ファイナンシャル・マネジメント・インクに、マザーファンドの海外の公社債等（短期金融商品を含む）の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（3）主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

為替予約の利用はヘッジ目的に限定しません。

デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

株式への直接投資は行いません。株式への投資は、転換社債を転換したものに限り、株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

26 ノムラ - インサイト欧州債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - インサイト欧州債券 マザーファンドへの投資を通じて、主として汎欧州通貨建ての公社債に実質的に投資を行ない、インカムゲインの確保と信託財産の成長を目標に運用を行ないます。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

「パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（円ヘッジベース）」は、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（現地通貨ベース）をもとに、委託会社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは「ノムラ - インサイト欧州債券 マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、公社債等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成20年5月21日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	インサイト・インベストメント・マネジメント（グローバル）リミテッド

インサイト・インベストメント・マネジメント（グローバル）リミテッドは、委託会社に対する約定の報告等事務業務の一部をThe Northern Trust Companyに代行させます。

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.4725%（税抜年0.45%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

汎欧州通貨建ての公社債を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

公社債への投資にあたっては、投資環境分析および定量分析等に基づき、国別配分、セクター配分および銘柄選択を行ない、ポートフォリオを構築し、収益の獲得を目指します。

マザーファンドにおいて、投資する公社債は、原則として、投資時点において、投資適格格付（BBB格相当以上の格付）を有する公社債、または同等の信用度を有すると判断される公社債とします。ただし、BBB-相当未満B-相当以上の格付を有する公社債（同等の信用度を有すると判断される公社債を含みます。）については、取得時において信託財産の純資産総額の10%を限度として投資することができます。なお、C格相当以下の格付が付与されている公社債には投資しません。

マザーファンドにおける通貨配分については、為替予約取引等を用いて債券の国別配分とは独立した通貨配分戦略を行なう場合があります。

実質組入外貨建資産については、原則として現地通貨による為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

インサイト・インベストメント・マネジメント（グローバル）リミテッド（Insight Investment Management (Global) Limited）にマザーファンドの海外の公社債等（含む金融商品等）の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

株式への直接投資は行ないません。株式への投資は転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り）を行使したものに限り、株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以内とします。

27 ノムラ日本債券オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ日本債券オープンマザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の公社債に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

ファンドは、NOMURA-BPI総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）をベンチマークとします。

ファンドは、「ノムラ日本債券オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接公社債等に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	野村アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.3675%（税抜年0.35%）の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（1）投資対象

わが国の公社債を実質的な主要投資対象とします。

（2）投資態度

公社債への投資にあたっては、マクロ経済分析、投資環境等のファンダメンタルズ分析およびマーケット分析等を行うと共に、セクター分析や個別発行体の信用リスク分析等に基づき、デュレーション、公社債のセクター（種別・格付別等）配分、個別銘柄選定等をアクティブに決定・変更し、収益の獲得を目指します。先物取引等も適宜活用します。

投資する公社債は、主として、NOMURA-BPI総合の構成銘柄および投資適格格付公社債（1社以上の指定格付機関から投資適格格付（BBB格相当以上、BBB-を含みます。）を受けている公社債とし、格付のない場合には委託者が同等の信用度を有すると判断したものを含みます。以下同じ。）とします。なお、投資適格格付公社債以外の公社債への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とし、原則としてB格相当以上（B-を含みます。）の格付を受けているものに限り投資できるものとします。

ポートフォリオのデュレーションは、原則としてNOMURA-BPI総合のデュレーションの±20%程度の範囲内に維持することを基本とします。ただし、投資環境、市況動向、資金動向等を勘案し、委託者が必要と判断した場合は、一時的に上記の範囲を超える場合があります。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

(3) 主な投資制限

外貨建資産への投資は行いません。

デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

株式への直接投資は行ないません。株式への投資は、転換社債を転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）を行使したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

28 ドイツ欧州債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるドイツ欧州債券マザーファンドへの投資を通じて、主として欧州諸国の現地通貨建債券に実質的に投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（円ベース ヘッジ付き）をベンチマークとします。

ファンドは、「ドイツ欧州債券マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接債券に投資する場合があります。

パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるパークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表を行うインデックスであり、汎欧州通貨建投資適格債券市場のパフォーマンスを表わします。当該インデックスに関する知的財産権及びその他の一切の権利はパークレイズ・キャピタルに帰属します。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月21日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ドイツ・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	ドイツ・アセット・マネジメント・インターナショナルGmbH

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.42%（税抜年0.40%）の率を乗じて得た額とします。なお、ファンドおよびマザーファンドの各投資顧問会社が受ける報酬は、委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

欧州諸国の現地通貨建債券を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

主要投資対象国は、ユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国とします。

公社債への投資は、原則としてB格相当以上の債券とします。

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

ドイチェ・アセット・マネジメント・インターナショナルGmbHに、ファンドの為替ヘッジに関する運用指図並びにマザーファンドの運用指図に関する権限を委託します。

資金動向や市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 主な投資制限

株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。

29 ゴールドマン・サックス・世界債券オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を含む世界各国の債券に実質的に投資を行ない、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

ファンドは、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）を委託会社が円ヘッジベースに換算した指数をベンチマークとします。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）は、J.P.Morgan Securities Inc.が公表している世界債券の指数です。

ファンドは、「ゴールドマン・サックス・世界債券オープンAコース（限定為替ヘッジ）マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成13年8月28日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナル（GSAMロンドン）

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.525%（税抜年0.5%）を乗じて得た金額とします。なお、ファンドおよびマザーファンドの各投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等として信託財産の純資産総額に対して年率0.05%を信託財産から支払います（なお、当該率については、年率0.05%を上限として変更する場合があります。）。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

日本を含む世界各国の債券を実質的な主要投資対象とします。

(2) 投資態度

中期的なデュレーションを有する世界の高格付けの公社債によって構成されるポートフォリオに重点をおいた、グローバルな投資プログラムを通じて、高いレベルのトータル・リターンをねらいます。世界の債券市場に分散投資することによりリスクの分散を図りますが、金利リスクは継続してとり続けていきます。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)を委託会社が円ヘッジベースに換算した指数をベンチマークとして運用を行ない、外貨建資産については為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。また、これとは別に為替アクティブ・ポジションを構築し、為替運用からの収益の確保も目指します。ただし、市況動向、資金動向等により委託会社が適切と判断した場合には上記と異なる場合もあります。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・インターナショナルに、債券および通貨の運用に関する権限を委託します。

(3) 主な投資制限

外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。

株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含む)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

30 LM・米国債券コア・プラスF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるLM・米国債券コア・プラス・マザーファンドへの投資を通じて、主として幅広いセクターの米国ドル建ての公社債に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるパークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、米ドル建て投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズ・キャピタルに帰属します。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）は、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（米国ドルベース）を、ヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「LM・米国債券コア・プラス・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成18年5月18日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー ウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.4935%（税抜年0.47%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。上記のほか、ファンドの組入
有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

米国ドル建ての公社債を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

米国ドル建ての高格付の公社債（モーゲージ証券及び資産担保証券を含みます。）及び米国のハイ・イールド社債またはエマージング・マーケット債に分散投資を行います。

原則として信託財産の純資産総額の70%以上を、スタンダード・アンド・プアーズ社、ムーディーズ社、フィッチ・レーティングス社のうち1社以上の格付機関から投資適格（BBB - またはBaa3以上）以上の格付を付与された公社債に投資します。組入れ公社債の格下げにより投資適格債の組入比率が信託財産の純資産総額の70%を下回った場合には、投資適格未滿の格付けを付与された公社債への追加投資は行いません。

ポートフォリオ全体の加重平均デュレーションは、ベンチマークの加重平均デュレーションを基準として、デュレーション戦略に基づき一定の範囲内で機動的に変動させます。

長期的観点に基づくバリュエーション（債券価値）志向の投資を行うことを基本とし、複数の投資戦略に分散することで、信託財産の成長を目指します。

米国ドル建て以外の外貨建資産への投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の20%以内とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を目指します。

マザーファンドにおいては、外貨建資産のうち、米国ドル建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。米国ドル建て以外の外貨建資産については、当該資産を米国ドルに為替ヘッジを行うことと同等の効果が得られる為替予約を行うことができます。

債券及び金利等の派生商品を効率的運用のため使用します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

運用の指図に関する権限のうち、米国ドル建ての公社債を中心とする有価証券等（派生商品を含みます。）の運用の指図に関する権限をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニーに、米国ドル以外の通貨建ての公社債を中心とする有価証券等（派生商品を含みます。）及び外国為替の運用の指図に関する権限をウエスタン・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドに委託します。

（３）主な投資制限

株式（新株引受権証券及び新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券（親投資信託を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

為替予約の利用及びデリバティブの使用は、ヘッジ目的に限定しません。

31 ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・マザーファンドへの投資を通じて、主として米国の国債、政府機関債等を実質的に投資を行ない、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（Barclays Capital U.S. Aggregate Bond Index、円ヘッジベース）の動きを概ね捉えつつ、定量的運用モデル「アクティブ・カレンシー・モデル」に基づき、為替市場の各種非効率性を示す複数のファクター（要因）に付加価値の源泉を分散しながら主要先進国通貨のロング/ショートポジション構築することで、多様な市場環境下で安定的な超過収益の獲得を目指して運用を行います。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（Barclays Capital U.S. Aggregate Bond Index、円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「ステート・ストリート米国総合債券カレンシー・アルファ・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成20年11月19日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.2625%（税抜0.25%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

(1) 投資対象

米国の国債、政府機関債等および短期金融資産を実質的な主要投資対象とします。加えて、各国為替取引等を実質的な主要取引対象とします。

(2) 投資態度

マザーファンドにおいては、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（Barclays Capital U.S. Aggregate Bond Index、円ベース）の動きを概ね捉えつつ、定量的運用モデル「アクティブ・カレンシー・モデル」に基づき、為替市場の各種非効率性を示す複数のファクター（要因）に付加価値の源泉を分散しながら主要先進国通貨のロング/ショートポジション構築することで、多様な市場環境下で安定的な超過収益の獲得を目指して運用を行います。

外貨建資産およびマザーファンド受益証券組入れに伴う実質的な組入外貨建資産について、マザーファンドの通貨配分の如何にかかわらず、原則としてパークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（Barclays Capital U.S. Aggregate Bond Index、円ベース）の通貨配分をベースに対円で為替ヘッジを行います。

ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニーにマザーファンドにおける運用指図に関する権限の一部を委託します。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったときならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむをえない事情が発生した場合には、上記のような運用が行われない場合や、当ファンドの投資目的が達成されない場合があります。

(3) 主な投資制限

米国の国債、政府機関債等への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券（マザーファンド受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブ取引の実質的な利用はヘッジ目的に限定しません。

外国為替予約取引の実質的な利用はヘッジ目的に限定しません。

32 ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・マザーファンドへの投資を通じて、主として欧州各国の国債、政府機関債等に実質的に投資を行ない、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（Barclays Capital Pan-European Aggregate Bond Index、円ヘッジベース）の動きを概ね捉えつつ、定量的運用モデル「アクティブ・カレンシー・モデル」に基づき、為替市場の各種非効率性を示す複数のファクター（要因）に付加価値の源泉を分散しながら主要先進国通貨のロング/ショートポジション構築することで、多様な市場環境下で安定的な超過収益の獲得を目指して運用を行います。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（Barclays Capital Pan-European Aggregate Bond Index、円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「ステート・ストリート欧州総合債券カレンシー・アルファ・マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成20年11月19日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.2625%（税抜0.25%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

欧州各国の国債、政府機関債等および短期金融資産を実質的な主要投資対象とします。加えて、各国為替取引等を実質的な主要取引対象とします。

（２）投資態度

マザーファンドにおいては、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（Barclays Capital Pan-European Aggregate Bond Index、円ベース）の動きを概ね捉えつつ、定量的運用モデル「アクティブ・カレンシー・モデル」に基づき、為替市場の各種非効率性を示す複数のファクター（要因）に付加価値の源泉を分散しながら主要先進国通貨のロング/ショートポジション構築することで、多様な市場環境下で安定的な超過収益の獲得を目指して運用を行います。

外貨建資産およびマザーファンド受益証券組入れに伴う実質的な組入外貨建資産については、マザーファンドの通貨配分の如何にかかわらず、原則としてパークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（Barclays Capital Pan-European Aggregate Bond Index、円ベース）の通貨配分をベースに対円で為替ヘッジを行います。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ・リミテッドにマザーファンドにおける運用指図に関する権限の一部を委託します。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったときならびに残存元本が運用に支障をきたす水準となったとき等やむをえない事情が発生した場合には、上記のような運用が行われない場合や、当ファンドの投資目的が達成されない場合があります。

（３）主な投資制限

欧州各国の国債、政府機関債等への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券（マザーファンド受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブ取引の実質的な利用はヘッジ目的に限定しません。

外国為替予約取引の実質的な利用はヘッジ目的に限定しません。

33 TCW 米国債券ファンド F（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるTCW 米国債券マザーファンド受益証券への投資を通して、主として米国ドル建の国債、社債、モーゲージ担保証券等に実質的に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長と安定した収益の確保を目標として運用を行います。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

米ドルベースの指数をもとに、委託会社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「TCW 米国債券マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）」を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、米国ドル建の国債、政府機関債、社債、モーゲージ担保証券等に直接投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成21年5月20日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ソシエテジェネラルアセットマネジメント株式会社
受託会社	中央三井アセット信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	TCW アセットマネジメントカンパニー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に年0.3465%（税抜年0.33%）の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬のうち委託会社が受け取る報酬分から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を投資信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

米国ドル建の国債、政府機関債、社債、モーゲージ担保証券等を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

投資に当たっては、主として、（ i ）米国国債（政府機関債を含む）、（ i i ）社債および（ i i i ）モーゲージ担保証券の3つのセクターに分散投資を行い、トップダウンによるセクター配分および各セクターにおける銘柄選択により、ベンチマークを中長期的に上回る投資成果をめざします。

セクター配分については、各セクターのバリュエーションおよびファンダメンタルズ分析等に基づいて、機動的な配分を行います。銘柄選択については、各セクターの運用チームがボトムアップ分析等に基づいて個別銘柄の評価を行い、ポートフォリオを構築します。

主として投資適格格付（BBB格相当以上の格付）を有する債券、または同等の信用度を有すると判断される債券に投資します。ただし、投資機会に応じて、投資適格格付未満の格付けを有する債券または同等の信用度を有すると判断される債券への投資を行うことがあります。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図ることをめざします。

TCW アセットマネジメントカンパニーに、マザーファンドの外貨建資産にかかる運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。

転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。）への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。

投資信託証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。

34 FFTW世界債券オープンF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるFFTW世界債券オープンマザーファンドへの投資を通じて、主として内外の公社債に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をはかることを目的として運用を行います。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）（Barclays Capital Global Aggregate Bond Index, ex JPY, JPY Hedged）とは、グローバルベース（日本円除く）の固定利付きの投資適格債のパフォーマンスを表す指標で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はパークレイズ・キャピタルに帰属しています。また、パークレイズ・キャピタルは、ファンドの運用成果等に関して一切の責任を負うものではありません。なお、「円ヘッジベース」とは対円での為替ヘッジを行い、円換算したものです。

ファンドは、「FFTW世界債券オープンマザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成15年5月19日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	ビー・エヌ・ピー・バリバアセットマネジメント株式会社
受託会社	住友信託銀行株式会社
マザーファンドの投資顧問会社	フィッシャー・フランシス・トリーズ・アンド・ワッツ・インク フィッシャー・フランシス・トリーズ・アンド・ワッツ（シンガポール）ピー・ティー・イー・リミテッド

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に年0.441%（税抜年0.42%）の率を乗じて得た金額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

内外の公社債を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

世界主要各国（日本を含む）の政府又は国際機関が発行または保証する債券に分散投資を行います。また社債、アセットバック証券（ABS）、モーゲージ証券（MBS）等にも投資を行います。

バークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとし、価格変動リスクを抑えつつ、中長期的なスタンスで、安定的な超過収益の獲得を目指します。

外貨建資産については、対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

債券運用とは別に、各国の通貨を対象にアクティブ運用を行い超過リターンを追求します。

金利および為替見通しに基づき、国別投資配分、通貨配分、各国のデュレーションおよびセクター配分を策定し、分散投資を行います。

投資する債券の信用格付については、基本的に投資時点において、投資適格格付（ムーディーズ社でBaa3、S&P社でBBB - ないしは同等の格付け、もしくはそれ以上の格付け）相当以上の格付けを有する公社債に投資します。ただし、投資適格格付相当以下の公社債に一部投資する場合があります。

債券先物取引等の派生商品を利用する場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

マザーファンドの運用にあたっては、フィッシャー・フランシス・トリーズ・アンド・ワッツ・インクおよびフィッシャー・フランシス・トリーズ・アンド・ワッツ（シンガポール）ピー・ティー・イー・リミテッドに運用指図に関する権限を委託します。

（３）主な投資制限

株式への投資割合は、転換社債を転換および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものの新株予約権に限り、）を行使したものに限り、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

35 アイエヌジー・欧州債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるアイエヌジー・欧州債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として欧州の債券に実質的に投資を行い、インカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

ファンドは、「アイエヌジー・欧州債券マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

（B）信託期間

無期限（平成17年11月22日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	アイエヌジー投信株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
マザーファンドの 投資顧問会社	アイエヌジー・アセット・マネジメントB.V.

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に対し、年0.42%（税抜年0.40%）の率を乗じて得た金額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

欧州の債券を実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

アイエヌジー・欧州債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。なお、債券等に直接投資する場合があります。

実質的に投資する債券のポートフォリオの平均格付をBBB格以上に保ちます。

実質的に投資する債券の最低格付はCCC - 格とします。

マザーファンドの外貨建資産については為替ヘッジを行いません。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジは、代表的なヨーロッパ債券インデックスの通貨配分と同程度として行います。

代表的なヨーロッパ債券インデックスは、パークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックスとします。

債券の運用プロセスは、

- （１）ファンダメンタル分析ならびにクオンツ手法による市場分析
 - （２）デュレーション、通貨配分、イールドカーブ・ポジショニング、クレジット他、各エクスポージャーのポジショニングの決定
 - （３）モデルポートフォリオの構築とコントロール
 - （４）当ファンドのポートフォリオの構築とリスクコントロール
- の4つのステップで行います。

資金動向、市場動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

株式、新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の30%以内とします。

投資信託証券（マザーファンドを除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

外国為替予約取引はヘッジ目的に限定しません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

36 メロン米国コア・プラス債券ファンドF（適格機関投資家専用）

（A）ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるメロン米国コア・プラス債券マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、主として米ドル建ての公社債、国際機関債、資産担保証券（ABS、MBS等）などの債券に実質的に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行うことを基本とします。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）をベンチマークとします。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（円ヘッジベース）は、パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（米ドルベース）を委託会社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、マザーファンドを親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接公社債等に投資する場合があります。

（B）信託期間

無期限（平成19年11月20日設定）

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
委託会社	BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
ファンドおよびマザーファンドの投資顧問会社	スタンディッシュ・メロン・アセット・マネジメント・カンパニー・エル・エル・シー

（D）管理報酬等

信託報酬の総額は、純資産総額に年0.43575%（税抜0.415%）の率を乗じて得た額とします。

なお、投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託財産中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、ファンドにかかる監査費用等をファンドから払います。

（E）投資方針等

（１）投資対象

米ドル建ての公社債、国際機関債および資産担保証券（ABS、MBS等）などを実質的な主要投資対象とします。

（２）投資態度

主として米ドル建ての公社債、国際機関債および資産担保証券（ABS、MBS等）などに実質的に投資します。債券種別や業種毎の投資配分は、経済状況や市場動向を総合的に勘案して、機動的に変更します。

債券種類毎のアナリストおよびポートフォリオマネジャーによる定性的なボトムアップ分析により銘柄の評価や景気動向の予測を行うとともに、定量モデルによる割安割高分析や金利動向分析等を組み合わせて、最終的ポートフォリオを構築します。

主として投資適格債（BBB-ないしBaa3以上）に投資します。また、個別銘柄の格付けには制限を設けず、投資機会に応じて、信用格付けの低い銘柄あるいは無格付けの銘柄への投資を行うことがあります。

投資対象国や発行体の所在国には制限を設けず、また投資対象通貨にも制限を設けません。ただし、マザーファンドにおける米ドル以外の資産の時価総額は、原則としてマザーファンド純資産総額の±20%以下とします。通貨運用においても機動的なポジション造成を行い投資収益の向上を目指します。

投資集中による信用リスクや価格変動リスクが過度に高まらない様に配慮し、マザーファンドにおいて、国債および政府機関債を除き、一発行体当たりの投資上限は5%までとし、一業種（金融業を除く）当たりの投資上限は25%までとします。

現物債への投資に加えて、デリバティブをヘッジ目的に限定せずに、ポジション造成に活用し、投資収益の向上に努めます。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ります。

スタンディッシュ・メロン・アセット・マネジメント・カンパニー・エル・エル・シーに、マザーファンドの運用の指図ならびにファンドにおける実質外貨建資産の為替ヘッジにかかる指図に関する権限を委託します。

市況動向、資金動向その他の要因等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

（３）主な投資制限

株式、新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

為替予約の利用およびデリバティブの使用は、ヘッジ目的に限定しません。

37 ウェリントン・マネージメント・ポートフォリオ（ケイマン） - 海外債券ファンド F

（A）ファンドの特色

ファンドは、世界に分散した債券ポートフォリオへ投資することにより、ベンチマーク指数を上回る収益の確保を目指して運用を行います。

ファンドは、パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックスの円ヘッジ指数をベンチマークとします。

ファンドは、円建てオープン・エンド型の英領ケイマン諸島籍契約型外国籍投資信託です。

（B）信託期間

ファンド設定日（2009年5月20日）から約149年間

（C）ファンドの関係法人

関係	名称
投資顧問会社	ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー
受託会社、管理事務代行会社	ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド
保管受託銀行	ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー

（D）管理報酬等

（1）投資顧問報酬および成功報酬

投資顧問会社は、投資顧問報酬として1年の日々ファンドの純資産総額の平均額の実質年率0.30%の金額を、ファンドから一年毎、ファンド決算日に受領します。

投資顧問会社は、成功報酬として、以下に規定する金額をファンドから年一回受領します。

・成功報酬はファンドの各会計年度（1月1日から12月31日）における成功報酬控除前基準価額（分配金込み）の収益率が、同期

間の指数の収益率を上回っている場合、当該超過分の20%に相当する額を成功報酬としてファンドから受領します。

・成功報酬の払い出しは、ファンドの会計年度の末日（12月31日）にのみ行われます。

・各会計年度の最終成功報酬控除前基準価額（分配金込み）、ならびに同日の指数を、翌会計年度の成功報酬計算のための新

な基準とします。尚、ハイウォーターマークや前年度からのパフォーマンス繰越などの方式は採用されていません。

（２）受託報酬

受託会社は受託報酬として年額1万8,000米ドルを等分し、毎月ファンドから受領します。

（３）保管報酬等

保管受託銀行は、ファンドの保管にかかる諸費用をファンドから受領しますが、当該費用は、投資対象市場及び証券、取引の頻度や量によって変動します。

管理事務代行会社は、ファンドの管理事務にかかる諸費用をファンドから受領しますが、当該費用はファンドの純資産総額に比例して変動する部分（年率0.0675%以内）と固定の部分とによって構成されます。主な固定費用としては、シェアクラス管理費用（年額60,000米ドル）、成功報酬管理費用（年額24,000米ドル）、財務諸表作成費用（年額7,500米ドル）、受益者口座管理費用（一口座当り年額500米ドル、年間最低24,000米ドル）があります。

（４）その他

ファンドは、監査人の費用、法律関係の費用、取引費用、その他ファンドに係る費用を負担します。

ファンドの設立に係る費用は、ファンドが負担し、1年間を超えない期間にわたり償却します。

（E）投資方針等

（１）投資対象

世界各国の発行体が発行する債券および先進諸国上場国債先物に主に投資を行います。

（２）投資態度

主としてベンチマーク指数に含まれる債券に投資します。なお、指数に含まれない政府・政府関連機関、国際機関の発行する債券、モーゲージ担保証券、社債、アセットバック証券、その他の債券、ならびに短期金融資産等に投資することがあります。

国債先物の他、短期金利先物等、その他上場・店頭デリバティブを組み入れることがあります。

ポートフォリオの投資目標の達成のために、上記のデリバティブのショート・ポジションを単独で保有することがあります。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ります。

（3）主な投資制限

株式への直接投資は行いません。株式への投資は、転換社債を転換したもの等に限り、株式への実質投資割合はファンド純資産総額の5%以下とします。

少なくともファンド資産総額の50%以上を社債、国債・地方政府債、モーゲージ担保証券およびその他のアセットバック証券、CPに投資します。

有価証券（現物に限る）の空売りについて、空売りを行った有価証券の時価総額がファンド純資産総額を超えないものとします。

資金の借り入れは、合併等による一時的な場合を除き、ファンド純資産総額の10%以下とします。

流動性の低い資産への投資は、ファンド純資産総額の15%以下とします。

投資信託証券への投資（REIT、ETFを含む）は、ファンド純資産総額の5%以下とします。

ベンチマークについて

外国の株式および債券に実質的に投資する指定投資信託証券のベンチマークは、各インデックスの円ヘッジベースの指数（各委託会社がヘッジコストを考慮して円換算した指数）とします。

東証株価指数（TOPIX）またはTOPIX（配当金込）（TOPIX（配当込み））は、株式会社東京証券取引所（以下「（株）東京証券取引所」という。）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は（株）東京証券取引所が有しています。（株）東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。

MSCI-KOKUSAI指数（MSCIコクサイ（日本を除く世界）インデックス）、MSCIヨーロッパインデックス（MSCI欧州株価指数）、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）は、MSCIが開発した指数で、当該指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

S&P500株価指数（S&P500種株価指数）は、スタンダード&プアーズが公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されております。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーに帰属しております。

パークレイズ・キャピタル・グローバル総合（日本円除く）インデックス（Barclays Capital Global Aggregate Bond Index, ex JPY）は、パークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるパークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、日本円を除く世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズ・キャピタルに帰属します。

パークレイズ・キャピタル米国総合インデックス（Barclays Capital U.S. Aggregate Bond Index）およびパークレイズ・キャピタル汎欧州総合インデックス（Barclays Capital Pan-European Aggregate Bond Index）は、パークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるパークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、各々、米ドル建て、汎欧州通貨建ての投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズ・キャピタルに帰属します。

NOMURA-BPI総合は野村證券株式会社が公表している公社債の指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）は、J.P.Morgan Securities Inc. が公表している世界債券の指数です。

指定投資信託証券の委託会社等について

指定投資信託証券の委託会社等の沿革は、以下の通りです。

野村アセットマネジメント株式会社

昭和34年（1959年）12月1日	野村證券投資信託委託株式会社として設立
平成9年（1997年）10月1日	投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村アセット・マネジメント投信株式会社に商号を変更
平成12年（2000年）11月1日	野村アセットマネジメント株式会社に商号を変更
平成15年（2003年）6月27日	委員会等設置会社へ移行

みずほ投信投資顧問株式会社

昭和39年5月26日	「朝日証券投資信託委託株式会社」設立
平成9年10月1日	「株式会社第一勧業投資顧問」「勸角投資顧問株式会社」と合併し、「第一勧業朝日投信投資顧問株式会社」に商号変更
平成11年7月1日	「第一勧業アセットマネジメント株式会社」に商号変更
平成19年7月1日	「富士投信投資顧問株式会社」と合併し、「みずほ投信投資顧問株式会社」に商号変更

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

昭和46年（1971年）	ジャーディン・フレミング、日本市場の成長性に着目し東京に駐在員事務所を開設
昭和60年（1985年）	ジャーディン・フレミング投資顧問株式会社設立、有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律施行に伴い、同社は昭和62年に投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。
平成2年（1990年）	ジャーディン・フレミング投信株式会社設立
平成7年（1995年）	ジャーディン・フレミング投資顧問株式会社とジャーディン・フレミング投信株式会社が合併し、ジャーディン・フレミング投信・投資顧問株式会社となる。
平成13年（2001年）	ジェー・ピー・モルガン・フレミング・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社に商号変更
平成18年（2006年）	JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社に商号変更
平成20年（2008年）	JPモルガン信託銀行株式会社より資産運用部門の事業を譲受

フィデリティ投信株式会社

昭和61年（1986年）	フィデリティ投資顧問株式会社設立
昭和62年（1987年）	投資顧問業登録
同年	投資一任業務の認可取得
平成7年（1995年）	投資信託委託業務の免許を取得、社名をフィデリティ投信株式会社に変更、投資顧問業務と投資信託委託業務を併営
平成19年（2007年）	金融商品取引業者として登録

アライアンス・バーンスタイン株式会社

平成 8年10月28日	アライアンス・キャピタル投信株式会社設立
平成 8年12月 3日	証券投資信託法上の委託会社としての免許取得
平成11年12月 9日	投資一任契約に係る業務の認可
平成12年 1月 1日	商号を「アライアンス・キャピタル投信株式会社」から「アライアンス・キャピタル・アセット・マネジメント株式会社」に変更

平成18年 4月 3日

商号を「アライアンス・キャピタル・アセット・マネジメント株式会社」
から「アライアンス・バーンスタイン株式会社」に変更**ピクテ投信投資顧問株式会社**

昭和56年（1981年）	ピクテ銀行東京駐在員事務所開設
昭和61年（1986年）	ピクテジャパン株式会社設立
昭和62年（1987年）	投資顧問業の登録
同年	投資一任業務の認可取得
平成9年（1997年）	ピクテ投信投資顧問株式会社に社名変更
同年	投資信託委託業務の免許取得

東京海上アセットマネジメント投信株式会社

昭和60年（1985年）12月	東京海上グループ（現：東京海上日動グループ）等の出資により、資産運用ビジネスの戦略的位置付けで、東京海上エム・シー投資顧問株式会社の社名にて資本金2億円で設立
昭和62年（1987年）2月	投資顧問業者として登録
同年6月	投資一任業務認可取得
平成3年（1991年）4月	国内および海外年金の運用受託を開始
平成10年（1998年）5月	東京海上アセットマネジメント投信株式会社に社名変更し、投資信託法上の委託会社としての免許取得
平成19年（2007年）9月	金融商品取引業者として登録

キャピタル・インターナショナル株式会社

昭和61年（1986年）3月	キャピタル・インターナショナル株式会社設立
昭和62年（1987年）3月	投資顧問業の登録
同年9月	投資一任業務の認可取得
平成18年（2006年）2月	投資信託委託業務の認可取得
平成19年（2007年）9月	金融商品取引業登録
平成20年（2008年）7月	キャピタル・インターナショナル・リサーチ・インコーポレイテッドから、同社東京支店における事業譲受

シュローダー証券投信投資顧問株式会社

昭和60年（1985年）12月10日	（株）シュローダー・インベストメント・マネージメント設立
平成3年（1991年）12月20日	シュローダー投信株式会社設立
平成9年（1997年）4月1日	シュローダー投信株式会社と（株）シュローダー・インベストメント・マネージメントが合併し、シュローダー投信投資顧問株式会社設立
平成19年（2007年）4月3日	シュローダー証券投信投資顧問株式会社に商号を変更

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

平成8年（1996年）2月6日	会社設立
平成14年（2002年）4月1日	ゴールドマン・サックス・アセット・マネージメント・ジャパン・リミテッドの営業の全部を譲受け、商号をゴールドマン・サックス投信株式会社からゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社に変更

ユービーエス・グローバル・アセット・マネジメント株式会社

平成8年4月1日	ユー・ビー・エス投資顧問株式会社 設立
----------	---------------------

平成10年4月28日	ユー・ビー・エス投信投資顧問株式会社に商号変更
平成12年7月1日	ユービーエス・プリンソン投資顧問株式会社と合併し、ユービーエス・アセット・マネジメント株式会社に商号変更
平成14年4月8日	ユービーエス・グローバル・アセット・マネジメント株式会社に商号変更

エムエフエス・インベストメント・マネジメント株式会社

平成10年（1998年）5月12日	マサチューセッツ・インベストメント・マネジメント株式会社設立
平成10年（1998年）6月30日	投資顧問業の登録
平成11年（1999年）2月18日	投資一任契約に係る業務の認可
平成11年（1999年）12月9日	証券投資信託委託業の認可
平成12年（2000年）8月1日	エムエフエス・インベストメント・マネジメント株式会社に商号変更
平成19年（2007年）9月30日	金融商品取引法施行に伴う金融商品取引業（投資助言・代理業、投資運用業）のみなし登録

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

1985年	モルガン・グレンフェル・インターナショナルアセットマネジメント（株）設立
1987年	投資顧問業登録、投資一任業務認可取得
1990年	ドイツ銀投資顧問（株）と合併し、ディービーモルガン・グレンフェルアセットマネジメント（株）に社名を変更
1995年	ディービーモルガン・グレンフェル投信投資顧問（株）に社名を変更 証券投資信託委託会社免許取得
1996年	ドイチェ・モルガン・グレンフェル投信投資顧問（株）に社名を変更
1999年	バンカース・トラスト投信投資顧問（株）と合併し、ドイチェ・アセット・マネジメント（株）に社名を変更
2002年	チューリッヒ・スカダー投資顧問（株）と合併
2005年	ドイチェ・アセット・マネジメント（株）とドイチェ信託銀行（株）の資産運用サービス業務を統合 資産運用部門はドイチェ・アセット・マネジメント（株）に一本化

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

平成10年（1998年）4月28日	会社設立
平成10年（1998年）6月16日	証券投資信託委託会社免許取得
平成10年（1998年）11月30日	投資顧問業登録
平成11年（1999年）6月24日	投資一任契約に係る業務の認可取得
平成11年（1999年）10月1日	スミスパーニー投資顧問株式会社と合併「エスエスピーシティ・アセット・マネジメント株式会社」に社名変更
平成13年（2001年）4月1日	「シティグループ・アセット・マネジメント株式会社」に社名変更
平成18年（2006年）1月1日	「レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社」に社名変更
平成19年（2007年）9月30日	金融商品取引業登録

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社

平成10年2月25日	ステート・ストリート投資顧問株式会社設立
平成10年10月1日	ステート・ストリート投信投資顧問株式会社業務開始
平成20年7月1日	グループ会社ステート・ストリート信託銀行より資産運用部門を営業譲受 現社名ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社に社名変更

ソシエテジェネラルアセットマネジメント株式会社

昭和46年（1971年）11月22日	山一投資コンサルティング株式会社設立
昭和55年（1980年）1月4日	山一投資コンサルティング株式会社から山一投資顧問株式会社へ社名変更
平成10年（1998年）1月28日	ソシエテジェネラル投資顧問株式会社（現SGAMノースパシフィック（株））が主要株主となる
平成10年（1998年）4月1日	山一投資顧問株式会社からエスジー山一アセットマネジメント株式会社へ社名変更
平成10年（1998年）11月30日	証券投資信託委託会社の免許取得
平成16年（2004年）8月1日	りそなアセットマネジメントと合併し、ソシエテジェネラルアセットマネジメント株式会社へ社名変更
平成19年（2007年）9月30日	金融商品取引法の施行に伴い同法の規定に基づく金融商品取引業者の登録を行う

ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント株式会社

平成10年（1998年）11月9日	ビー・エヌ・ピー投信株式会社設立
平成10年（1998年）11月30日	証券投資信託委託業の免許取得
平成11年（1999年）2月26日	証券投資顧問業の登録
平成12年（2000年）6月20日	投資一任契約業務の認可取得
平成12年（2000年）8月1日	パリバ投資顧問株式会社の営業の全部を譲り受ける
平成12年（2000年）8月1日	ビー・エヌ・ピー・パリバアセットマネジメント株式会社に社名変更

アイエヌジー投信株式会社

平成11年9月8日	アイエヌジー投信株式会社設立
平成11年9月30日	証券投資信託委託業の認可取得、投資顧問業の登録
平成17年8月31日	投資一任契約に係る業務の認可取得
平成19年9月30日	金融商品取引業のみなし登録
平成21年1月5日	第一種金融商品取引業の業務開始

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

平成10年11月6日	ドレイファス・メロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社設立
平成10年11月30日	投資顧問業者の登録 関東財務局長 第828号
平成11年12月9日	投資一任契約にかかる業務の認可取得 金融再生委員会第21号
平成12年1月1日	会社名をメロン・アセットマネジメント・ジャパン株式会社に変更
平成12年5月18日	証券投資信託委託業の認可取得 金融再生委員会第28号
平成13年10月1日	会社名をメロン・グローバル・インベストメンツ・ジャパン株式会社に変更
平成19年9月30日	金融商品取引業者の登録 関東財務局長（金商）第406号
平成19年11月1日	会社名をBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社に変更

ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド

昭和60年（1985年）6月	ステート・ストリート・キャピタル・マーケッツ・リミテッド設立
平成2年（1990年）2月	ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッドに社名変更

【ハッピーライフファンド・株25（ライフプラン積立て向け）】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第3期中間計算期間末 平成21年 2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年 2月28日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	1,835,824	2,807,763
投資信託受益証券	136,010,743	206,816,774
未収利息	5	8
流動資産合計	137,846,572	209,624,545
資産合計	137,846,572	209,624,545
負債の部		
流動負債		
未払金	3,969	34,446
未払受託者報酬	19,779	30,476
未払委託者報酬	421,887	650,034
その他未払費用	1,241	1,969
流動負債合計	446,876	716,925
負債合計	446,876	716,925
純資産の部		
元本等		
元本	170,011,698	224,619,305
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	32,612,002	15,711,685
（分配準備積立金）	-	13,541
元本等合計	137,399,696	208,907,620
純資産合計	137,399,696	208,907,620
負債純資産合計	137,846,572	209,624,545

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第3期中間計算期間 自平成20年 8月30日 至平成21年 2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年 9月 1日 至平成22年 2月28日
営業収益		
受取利息	3,864	1,728
有価証券売買等損益	16,523,612	3,547,110
その他収益	-	993
営業収益合計	16,519,748	3,549,831
営業費用		
受託者報酬	19,779	30,476
委託者報酬	421,887	650,034
その他費用	1,241	1,969
営業費用合計	442,907	682,479
営業利益	16,962,655	2,867,352
経常利益	16,962,655	2,867,352
中間純利益	16,962,655	2,867,352
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	942,469	35,739
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	9,235,746	16,937,683
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,054,594	1,724,105
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,054,594	1,724,105
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,410,664	3,329,720
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,410,664	3,329,720
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	32,612,002	15,711,685

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月1日 至 平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日 のため、平成20年8月30日から平成21 年8月31日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成20年8 月30日から平成21年2月28日までと なっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び 当期末が休日のため、平成21年9月1 日から平成22年8月30日までとなっ ております。 なお、当該中間計算期間は前期末が 休日のため、平成21年9月1日か ら平成22年2月28日までとなっ ております。

(中間貸借対照表に関する注記)

	第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在
1 中間計算期間の末日における受益権の総数	170,011,698 口	224,619,305 口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損	32,612,002 円	15,711,685 円
3 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	0.8082 円 8,082 円	0.9301 円 9,301 円

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月1日 至 平成22年2月28日
1 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額	113,802 円	176,306 円

(その他の注記)

1 元本の移動

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月1日 至 平成22年2月28日
期首元本額	125,922,782 円	202,692,105 円
期中追加設定元本額	56,543,599 円	42,435,586 円
期中一部解約元本額	12,454,683 円	20,508,386 円

2 売買目的有価証券の中間貸借対照表計上額等

第3期中間計算期間(自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間(自 平成21年9月1日 至 平成22年2月28日)

該当事項はございません。

3 デリバティブ取引関係

第3期中間計算期間末(平成21年2月28日現在)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間末(平成22年2月28日現在)

該当事項はございません。

ハッピーライフファンド・株50(ライフプラン積立て向け)

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については内閣府令第50号附則第4条第1項第1号により、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。

投資信託財産計算規則は、平成21年6月24日付内閣府令第35号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)については改正前の投資信託財産計算規則に基づき作成しており、第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については改正後の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。

また、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

【ハッピーライフファンド・株50（ライフプラン積立て向け）】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第3期中間計算期間末 平成21年 2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年 2月28日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	3,406,005	7,052,623
投資信託受益証券	294,870,217	496,729,733
未収利息	11	20
流動資産合計	298,276,233	503,782,376
資産合計	298,276,233	503,782,376
負債の部		
流動負債		
未払金	-	280,659
未払解約金	-	80,477
未払受託者報酬	43,341	72,864
未払委託者報酬	924,472	1,554,353
その他未払費用	4,274	7,227
流動負債合計	972,087	1,995,580
負債合計	972,087	1,995,580
純資産の部		
元本等		
元本	432,617,680	602,785,068
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	135,313,534	100,998,272
（分配準備積立金）	-	22,999
元本等合計	297,304,146	501,786,796
純資産合計	297,304,146	501,786,796
負債純資産合計	298,276,233	503,782,376

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第3期中間計算期間 自平成20年 8月30日 至平成21年 2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年 9月 1日 至平成22年 2月28日
営業収益		
受取利息	9,277	4,158
有価証券売買等損益	68,568,591	3,148,163
その他収益	-	1,509
営業収益合計	68,559,314	3,153,830
営業費用		
受託者報酬	43,341	72,864
委託者報酬	924,472	1,554,353
その他費用	4,274	7,227
営業費用合計	972,087	1,634,444
営業利益	69,531,401	1,519,386
経常利益	69,531,401	1,519,386
中間純利益	69,531,401	1,519,386
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	1,704,441	107,567
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	33,627,984	90,017,191
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,111,428	7,571,038
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,111,428	7,571,038
剰余金減少額又は欠損金増加額	35,970,018	20,179,072
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	35,970,018	20,179,072
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	135,313,534	100,998,272

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日 のため、平成20年8月30日から平成21 年8月31日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成20年8 月30日から平成21年2月28日までと なっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び 当期末が休日のため、平成21年9月 1 日から平成22年8月30日までとなっ ております。 なお、当該中間計算期間は前期末が 休日のため、平成21年9月 1 日か ら平成22年2月28日までとなっ ております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在
1 中間計算期間の末日における受益権の総数 432,617,680 口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 602,785,068 口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定 する額 元本の欠損 135,313,534 円	2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定 する額 元本の欠損 100,998,272 円
3 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産 の額 1 口当たり純資産額 0.6872 円 (10,000口当たり純資産額 6,872 円)	3 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産 の額 1 口当たり純資産額 0.8324 円 (10,000口当たり純資産額 8,324 円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
1 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部 を委託する為に要する費用 支払金額 249,284 円	1 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一 部を委託する為に要する費用 支払金額 421,610 円

(その他の注記)

1 元本の移動

第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
期首元本額 295,826,621 円	期首元本額 530,864,032 円
期中追加設定元本額 152,075,741 円	期中追加設定元本額 116,259,008 円
期中一部解約元本額 15,284,682 円	期中一部解約元本額 44,337,972 円

2 売買目的有価証券の中間貸借対照表計上額等

第3期中間計算期間(自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間(自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日)

該当事項はございません。

3 デリバティブ取引関係

第3期中間計算期間末(平成21年2月28日現在)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間末(平成22年2月28日現在)

該当事項はございません。

ハッピーライフファンド・株100(ライフプラン積立て向け)

- (1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については内閣府令第50号附則第4条第1項第1号により、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。

投資信託財産計算規則は、平成21年6月24日付内閣府令第35号により改正されておりますが、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)については改正前の投資信託財産計算規則に基づき作成しており、第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)については改正後の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。

また、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- (2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3期中間計算期間(平成20年8月30日から平成21年2月28日まで)および第4期中間計算期間(平成21年9月1日から平成22年2月28日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

【ハッピーライフファンド・株100（ライフプラン積立て向け）】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第3期中間計算期間末 平成21年 2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年 2月28日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,346,318	3,761,189
投資信託受益証券	163,062,265	329,557,936
未収利息	7	10
流動資産合計	165,408,590	333,319,135
資産合計	165,408,590	333,319,135
負債の部		
流動負債		
未払金	8,195	-
未払受託者報酬	24,818	47,903
未払委託者報酬	653,418	1,261,383
その他未払費用	2,420	4,732
流動負債合計	688,851	1,314,018
負債合計	688,851	1,314,018
純資産の部		
元本等		
元本	328,715,653	494,839,337
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	163,995,914	162,834,220
元本等合計	164,719,739	332,005,117
純資産合計	164,719,739	332,005,117
負債純資産合計	165,408,590	333,319,135

(2)【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第3期中間計算期間 自平成20年 8月30日 至平成21年 2月28日	第4期中間計算期間 自平成21年 9月 1日 至平成22年 2月28日
営業収益		
受取利息	5,955	2,825
有価証券売買等損益	76,920,038	971,772
その他収益	-	2,264
営業収益合計	76,914,083	966,683
営業費用		
受託者報酬	24,818	47,903
委託者報酬	653,418	1,261,383
その他費用	2,420	4,732
営業費用合計	680,656	1,314,018
営業利益	77,594,739	2,280,701
経常利益	77,594,739	2,280,701
中間純利益	77,594,739	2,280,701
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額	966,973	115,484
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	38,492,281	137,132,722
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,250,232	8,752,428
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,250,232	8,752,428
剰余金減少額又は欠損金増加額	50,126,099	32,288,709
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	50,126,099	32,288,709
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	163,995,914	162,834,220

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 基準価額で評価しております。	(1) 投資信託受益証券 同左
2 費用・収益の計上基準	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。	(1) 有価証券売買等損益の計上基準 同左
3 その他	当ファンドの計算期間は期末が休日 のため、平成20年8月30日から平成21 年8月31日までとなっております。 なお、当該中間計算期間は、平成20年8 月30日から平成21年2月28日までと なっております。	当ファンドの計算期間は前期末及び 当期末が休日のため、平成21年9月 1 日から平成22年8月30日までとなっ ております。 なお、当該中間計算期間は前期末が 休日のため、平成21年9月 1 日か ら平成22年2月28日までとなってい ます。

(中間貸借対照表に関する注記)

第3期中間計算期間末 平成21年2月28日現在	第4期中間計算期間末 平成22年2月28日現在
1 中間計算期間の末日における受益権の総数 328,715,653 口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 494,839,337 口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定 する額 元本の欠損 163,995,914 円	2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定 する額 元本の欠損 162,834,220 円
3 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産 の額 1 口当たり純資産額 0.5011 円 (10,000口当たり純資産額 5,011 円)	3 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産 の額 1 口当たり純資産額 0.6709 円 (10,000口当たり純資産額 6,709 円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
1 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部 を委託する為に要する費用 支払金額 142,601 円	1 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一 部を委託する為に要する費用 支払金額 277,224 円

(その他の注記)

1 元本の移動

第3期中間計算期間 自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日	第4期中間計算期間 自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日
期首元本額 206,389,154 円	期首元本額 424,632,545 円
期中追加設定元本額 128,060,201 円	期中追加設定元本額 97,183,397 円
期中一部解約元本額 5,733,702 円	期中一部解約元本額 26,976,605 円

2 売買目的有価証券の中間貸借対照表計上額等

第3期中間計算期間(自 平成20年8月30日 至 平成21年2月28日)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間(自 平成21年9月 1 日 至 平成22年2月28日)

該当事項はございません。

3 デリバティブ取引関係

第3期中間計算期間末(平成21年2月28日現在)

該当事項はございません。

第4期中間計算期間末(平成22年2月28日現在)

該当事項はございません。

2 ファンドの現況

原届出書の 第三部 ファンドの詳細情報 第4 ファンドの経理状況 2 ファンドの現況 につきまして
は、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

純資産額計算書

平成22年3月31日現在

「ハッピーライフファンド・株25」

資産総額	218,429,568	円
負債総額	1,618,904	円
純資産総額(-)	216,810,664	円
発行済口数	226,933,593	口
1口当たり純資産額(/)	0.9554	円

「ハッピーライフファンド・株50」

資産総額	540,233,946	円
負債総額	5,499,296	円
純資産総額(-)	534,734,650	円
発行済口数	610,964,530	口
1口当たり純資産額(/)	0.8752	円

「ハッピーライフファンド・株100」

資産総額	371,360,072	円
負債総額	1,088,886	円
純資産総額(-)	370,271,186	円
発行済口数	505,524,482	口
1口当たり純資産額(/)	0.7324	円

第5【設定及び解約の実績】

原届出書の 第三部 ファンドの詳細情報 第5 設定及び解約の実績 につきましては、以下の内容に更
新・訂正されます。

<更新・訂正後>

「ハッピーライフファンド・株25」

期	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1期	32,814,224	1,033,406	31,780,818
第2期	106,640,801	12,498,837	125,922,782
第3期	103,698,131	26,928,808	202,692,105
第4期(中間期)	42,435,586	20,508,386	224,619,305

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

「ハッピーライフファンド・株50」

期	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1期	63,906,133	679,441	63,226,692
第2期	247,810,028	15,210,099	295,826,621
第3期	285,676,917	50,639,506	530,864,032
第4期(中間期)	116,259,008	44,337,972	602,785,068

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

「ハッピーライフファンド・株100」

期	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1期	41,613,375	624,050	40,989,325

第2期	174,710,145	9,310,316	206,389,154
第3期	241,933,413	23,690,022	424,632,545
第4期(中間期)	97,183,397	26,976,605	494,839,337

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

第四部【特別情報】

第1【委託会社等の概況】

1 委託会社等の概況

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

(1) 資本金の額

平成21年10月末現在、17,180百万円

(以下略)

<訂正後>

(1) 資本金の額

平成22年4月末現在、17,180百万円

(以下略)

2 事業の内容及び営業の概況

原届出書の 第四部 特別情報 第1 委託会社等の概況 2 事業の内容及び営業の概況 につきましては、以下の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は平成22年4月30日現在次の通りです(ただし、親投資信託を除きます。)

種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	650	9,965,367
単位型株式投資信託	20	193,750
追加型公社債投資信託	19	5,156,097
単位型公社債投資信託	0	0
合計	689	15,315,214

3 委託会社等の経理状況

原届出書の 第四部 特別情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況の該当部分を以下のように訂正するとともに、末尾に添付のように、最近中間会計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）の中間財務諸表（以下「中間財務諸表」といいます。）が追加されます。

下線部_____は訂正部分を示します。

<訂正前>

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

なお、財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号及び平成20年12月12日付内閣府令第80号により改正されておりますが、第49期事業年度(前事業年度)は、内閣府令第50号及び内閣府令第80号改正前の財務諸表等規則に基づき作成しており、第50期事業年度(当事業年度)は、内閣府令第50号附則第2条第1項第1号により、内閣府令第50号改正前の財務諸表等規則及び内閣府令第80号改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度及び当事業年度の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

なお、新日本監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成20年7月1日をもって新日本有限責任監査法人となりました。

<訂正後>

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

なお、財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号及び平成20年12月12日付内閣府令第80号により改正されておりますが、前事業年度(第49期事業年度)は、内閣府令第50号及び内閣府令第80号改正前の財務諸表等規則に基づき作成しており、当事業年度(第50期事業年度)は、内閣府令第50号附則第2条第1項第1号により、内閣府令第50号改正前の財務諸表等規則及び内閣府令第80号改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。なお、中間財務諸表等規則は、平成20年8月7日付内閣府令第50号により改正されておりますが、委託会社の中間財務諸表は、同内閣府令附則第4条第1項第1号により、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度及び当事業年度の財務諸表ならびに中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

< 中間財務諸表 >

[次へ](#)

第2【その他の関係法人の概況】

1 名称、資本金の額及び事業の内容

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部 _____ は訂正部分を示します。

< 訂正前 >

(1) 受託者

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村信託銀行株式会社	30,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

* 平成21年9月末現在

(2) 販売会社

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村証券株式会社	10,000百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

* 平成21年9月末現在

(3) 投資顧問会社

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社	400百万円	「金融商品取引法」に定める投資運用業などを営んでいます。

* 平成21年9月末現在

< 訂正後 >

(1) 受託者

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村信託銀行株式会社	30,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

* 平成22年3月末現在

(2) 販売会社

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村証券株式会社	10,000百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

*平成22年3月末現在

(3) 投資顧問会社

(a)名称	(b)資本金の額 [*]	(c)事業の内容
野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社	400百万円	「金融商品取引法」に定める投資運用業などを営んでいます。

*平成22年3月末現在

中間貸借対照表

		平成21年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		561
金銭の信託		39,406
有価証券		3,200
短期貸付金		519
未収委託者報酬		10,926
未収収益		3,015
繰延税金資産		893
その他		239
貸倒引当金		6
流動資産計		58,755
固定資産		
有形固定資産	1	2,136
無形固定資産		12,282
ソフトウェア		12,278
その他		3
投資その他の資産		29,202
投資有価証券		12,526
関係会社株式		15,739
繰延税金資産		220
その他		716
貸倒引当金		0
固定資産計		43,620
資産合計		102,375

		平成21年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(負債の部)		
流動負債		
関係会社短期借入金		17,000
未払収益分配金		4
未払償還金		79
未払手数料		4,823
その他未払金	2	946
未払費用		6,468
未払法人税等		578
賞与引当金		1,371
その他		137
流動負債計		31,409
固定負債		
退職給付引当金		4,603
時効後支払損引当金		463
その他		332
固定負債計		5,399
負債合計		36,808
(純資産の部)		
株主資本		61,922
資本金		17,180
資本剰余金		11,729
資本準備金		11,729
利益剰余金		33,012
利益準備金		685
その他利益剰余金		32,327
別途積立金		24,606
繰越利益剰余金		7,721
評価・換算差額等		3,644
その他有価証券評価差額金		3,516
繰延ヘッジ損益		127
純資産合計		65,567
負債・純資産合計		102,375

中間損益計算書

		自平成21年4月1日 至平成21年9月30日
区分	注記 番号	金額(百万円)
営業収益		
委託者報酬		36,849
運用受託報酬		4,504
その他営業収益		32
営業収益計		41,385
営業費用		
支払手数料		17,083
調査費		9,487
その他営業費用		2,304
営業費用計		28,875
一般管理費	1	11,875
営業利益		634
営業外収益	2	4,058
営業外費用	3	133
経常利益		4,559
特別利益	4	195
特別損失	5	35
税引前中間純利益		4,719
法人税、住民税及び事業税		890
法人税等調整額		110
中間純利益		3,718

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間

（単位：百万円）

	自 平成21年 4月 1日
	至 平成21年 9月30日
株主資本	
資本金	
前期末残高	17,180
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	17,180
資本剰余金	
資本準備金	
前期末残高	11,729
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	11,729
資本剰余金合計	
前期末残高	11,729
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	11,729
利益剰余金	
利益準備金	
前期末残高	685
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	685
その他利益剰余金	
別途積立金	
前期末残高	24,606
当中間期変動額	
当中間期変動額合計	-
当中間期末残高	24,606
繰越利益剰余金	
前期末残高	7,608
当中間期変動額	
剰余金の配当	3,605
中間純利益	3,718
当中間期変動額合計	112
当中間期末残高	7,721
利益剰余金合計	
前期末残高	32,900

当中間期変動額	
剰余金の配当	3,605
中間純利益	3,718
当中間期変動額合計	112
当中間期末残高	33,012
株主資本合計	
前期末残高	61,810
当中間期変動額	
剰余金の配当	3,605
中間純利益	3,718
当中間期変動額合計	112
当中間期末残高	61,922
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	
前期末残高	2,084
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1,432
当中間期変動額合計	1,432
当中間期末残高	3,516
繰延ヘッジ損益	
前期末残高	249
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	121
当中間期変動額合計	121
当中間期末残高	127
評価・換算差額等合計	
前期末残高	2,333
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1,310
当中間期変動額合計	1,310
当中間期末残高	3,644
純資産合計	
前期末残高	64,143
当中間期変動額	
剰余金の配当	3,605
中間純利益	3,718
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	1,310
当中間期変動額合計	1,423
当中間期末残高	65,567

[中間財務諸表作成の基本となる重要な事項]

	自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日
1 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>子会社株式及び関連会社株式...移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの...中間決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております) 時価のないもの...移動平均法による原価法</p>
2 デリバティブ取引等の評価基準及び評価方法	時価法
3 運用目的の金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
4 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成10年 4月 1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。ただし、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間に基づく定額法によっております。</p>
5 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>
6 リース取引の処理方法	<p>リース取引開始日が平成20年 4月 1日より前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>

	自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日
7 ヘッジ会計の方法	<p>(1) ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計は、原則として、時価評価されているヘッジ手段に係る損益を、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで資産または負債として繰り延べる方法によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 - 為替予約、株価指数先物 ヘッジ対象 - 投資有価証券</p> <p>(3) ヘッジ方針 投資有価証券に係る為替変動リスク及び価格変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替変動リスク及び価格変動リスクのヘッジにつきましては、そのリスク減殺効果を、対応するヘッジ手段ならびにヘッジ対象ごとに定期的に把握し、ヘッジの有効性を確かめております。</p>
8 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。
9 連結納税制度の適用	連結納税制度を適用しております。

[注記事項]

中間貸借対照表関係

平成21年 9月30日現在	
1 有形固定資産の減価償却累計額	1,614百万円
2 消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。

中間損益計算書関係

自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日	
1 減価償却実施額	
有形固定資産	360百万円
無形固定資産	1,765百万円
長期前払費用	3百万円
2 営業外収益のうち主要なもの	
受取配当金	2,569百万円
金銭の信託運用益	1,364百万円
3 営業外費用のうち主要なもの	
支払利息	54百万円
4 特別利益の内訳	
投資有価証券売却益	72百万円
株式報酬受入益	122百万円
5 特別損失の内訳	
投資有価証券売却損	23百万円
投資有価証券等評価損	0百万円
固定資産除却損	12百万円

中間株主資本等変動計算書関係

自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日				
1 発行済株式に関する事項				
	株式の種類	平成21年 3月 末	増加	減少
	普通株式	5,150,693株	-	-
				平成21年 9月 末
				5,150,693株
2 配当に関する事項				
配当金支払額				
平成21年 5月28日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。				
・普通株式の配当に関する事項				
(1) 配当金の総額		3,605百万円		
(2) 1株当たり配当額		700円		
(3) 基準日		平成21年 3月31日		
(4) 効力発生日		平成21年 6月 1日		

リース取引関係

自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日	
1 ファイナンス・リース取引	
(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの) 該当事項はありません。	
(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び中間期末残高相当額	
有形固定資産（器具備品）	
取得価額相当額	1,330百万円
減価償却累計額相当額	1,076
中間期末残高相当額	254
未経過リース料中間期末残高相当額	
1年内	121百万円
1年超	141
合計	263
支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額	
支払リース料	116百万円
減価償却費相当額	108
支払利息相当額	4
減価償却費相当額の算定方法	
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	
利息相当額の算定方法	
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。	
2 オペレーティング・リース取引	
未経過リース料	
1年内	7百万円
1年超	5
合計	12

有価証券関係

当中間会計期間末(平成21年9月30日)

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの：該当事項はありません。

2 子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

	中間貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
関連会社株式	3,064	92,631	89,567
合計	3,064	92,631	89,567

3 その他有価証券で時価のあるもの

種類	取得原価 (百万円)	中間貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	282	6,324	6,041
(2) その他()	5,328	5,247	81
合計	5,611	11,572	5,960

() 当中間会計期間末において、投資有価証券に係る為替変動リスク及び価格変動リスクをヘッジするための為替予約取引及び株価指数先物取引についてヘッジ会計を適用しております。対応する繰延ヘッジ利益は127百万円(税効果会計適用後)であり、貸借対照表に計上しております。

4 時価評価されていない主な有価証券(上記1及び2を除く)

	中間貸借対照表計上額(百万円)
(1) 子会社株式及び関連会社株式	12,675
(2) その他有価証券	
譲渡性預金	3,200
非上場株式	954

(注) その他有価証券で時価のあるものについての減損処理にあたっては、中間会計期間末時価が取得価額より30%以上下落したものについて、原則として下落額について評価減を行なうこととしております。

デリバティブ取引関係

当中間会計期間末(平成21年9月30日)

該当事項はありません。

なお、為替予約取引及び株価指数先物取引を行っておりますが、いずれもヘッジ会計を適用し

ておりますので注記の対象から除いております。

1 株当たり情報

自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日	
1株当たり純資産額	12,729円78銭
1株当たり中間純利益	721円90銭
(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益につきましては、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。	
2. 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。	
中間純利益	3,718百万円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益	3,718百万円
期中平均株式数	5,150千株

独立監査人の中間監査報告書

平成21年11月30日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第51期事業年度の中間会計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の平成21年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

独立監査人の中間監査報告書

平成21年4月20日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株25（ライフプラン積立て向け）の平成20年8月30日から平成21年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株25（ライフプラン積立て向け）の平成21年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成20年8月30日から平成21年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成21年4月20日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株50（ライフプラン積立て向け）の平成20年8月30日から平成21年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株50（ライフプラン積立て向け）の平成21年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成20年8月30日から平成21年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成21年4月20日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株100（ライフプラン積立て向け）の平成20年8月30日から平成21年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株100（ライフプラン積立て向け）の平成21年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成20年8月30日から平成21年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成22年4月16日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株25（ライフプラン積立て向け）の平成21年9月1日から平成22年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株25（ライフプラン積立て向け）の平成22年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成21年9月1日から平成22年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年4月16日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株50（ライフプラン積立て向け）の平成21年9月1日から平成22年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株50（ライフプラン積立て向け）の平成22年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成21年9月1日から平成22年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成22年4月16日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 英 公 一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているハッピーライフファンド・株100（ライフプラン積立て向け）の平成21年9月1日から平成22年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ハッピーライフファンド・株100（ライフプラン積立て向け）の平成22年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成21年9月1日から平成22年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

[次へ](#)